

■地域公共交通の現状と課題

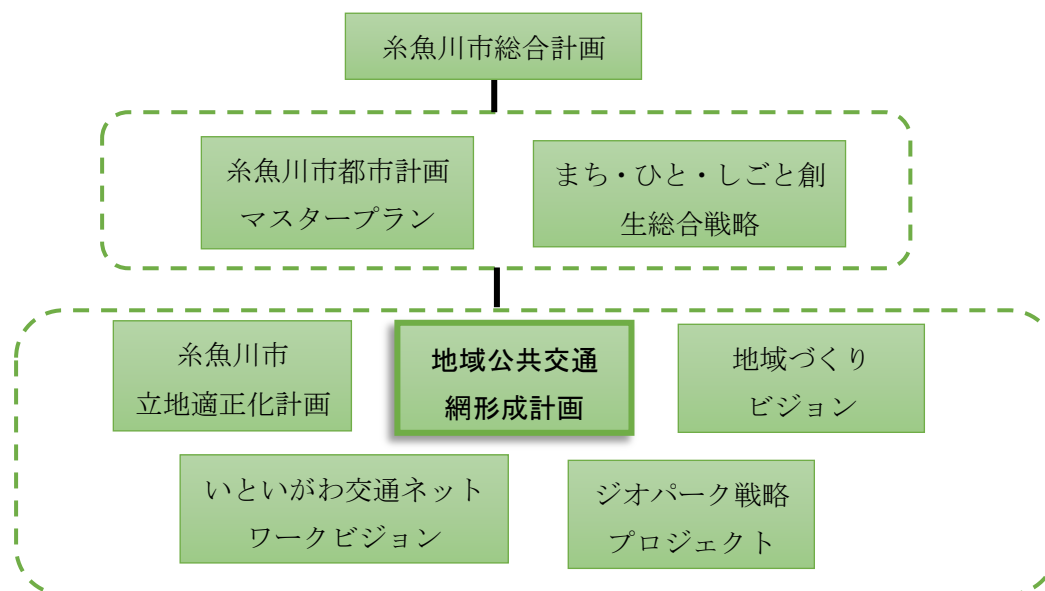
目次

1. 糸魚川市の現状分析	1
1. 上位・関連計画	1
2. 市域の概況の整理	4
（1）糸魚川市の成り立ち	4
（2）地勢	4
（3）人口	5
（4）人口分布	8
（5）市内主要道路網	9
3. 公共交通の現状の整理	10
（1）市内公共交通網	10
（2）鉄道	11
（3）バス	15
（4）北陸新幹線	25
（5）補助金額	26
（6）公共交通利用促進事業等	26
（7）その他	27
4. 新駅設置候補地周辺の現況整理	33
5. 現況の整理と課題	34
（1）現況の整理	34
（2）課題の整理	36

1. 糸魚川市の現状分析

1. 上位・関連計画

糸魚川市内における上位、関連計画を整理する。市内公共交通に関する主な施策及び目標の指標は次のとおり位置づけられている。



① 糸魚川市総合計画（平成 18. 11 策定）

計画期間：平成 19 年度～平成 28 年度（10 年間） ※現在第 2 次総合計画策定中

将来都市像「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」

施策の主な内容

● 便利で快適なまちづくり

- ・ 交通ネットワークの整備

路線バスやコミュニティバスなどを組み合わせた、利用しやすい交通体系の整備に努めます。

- ・ 北陸新幹線開通に向けたまちづくり

糸魚川駅を北陸新幹線と並行在来線との結節点とするため、糸魚川駅の乗降客増に向けた施策を進めます。

● 交流いきいき産業のまちづくり

- ・ 魅力ある観光の振興

体験型観光客の受入れ体制の整備、温泉を活用した健康づくりによる誘客を支援します。

新たな観光資源の発掘とテーマ性・ストーリー性をもたせた既存観光資源の展開を図ります。

② 糸魚川市都市計画マスタープラン（平成 19.8 策定）

計画期間：平成 19 年度～平成 28 年度（10 年間） ※現在計画改訂中

基本理念と具体的な施策

- ・基本理念：自然、交流、元気、明日（みらい）に向けて輝くまち
- ・基本方針

●道路・交通体系整備の構想・方針

《鉄道》

・北陸新幹線、J R 北陸本線（並行在来線）、J R 大糸線及びバス交通については、本市の公共交通体系として位置づけ、コンパクトなまちづくりにあつて円滑な移動に資する交通手段として利用促進を図ります。

《基幹バス、循環バス》

・バス交通空白地域の解消や J R 北陸本線（並行在来線）及び J R 大糸線の各駅における交通結節機能を強化するための施設整備を推進する他、必要に応じてバス停の配置を含めたバス交通網の再編を進めます。

- ・主要なバス停周辺においては、パーク・アンド・バスライド、サイクル・アンド・バスライド駐車場の整備について検討します。

③ 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27.10 策定）

計画期間：平成 27 年度～平成 31 年度（5 年間）

基本目標と具体的な施策

- ・目標
- ・基本方針 暮らしやすさで安心・元気なまちづくり

地域公共交通網形成計画の策定

目的：公共交通ネットワークを再構築

具体的施策：まちづくりと連携し、あらゆる交通手段を含む面的な計画策定

④ 立地適正化計画作成

※平成 28～29 年度策定中

⑤ いといがわ交通ネットワークビジョン（平成 19.3 策定）（平成 25.3 見直し）

計画期間：平成 19 年度～平成 38 年度（20 年間）

※世界ジオパーク認定及び北陸新幹線開業に伴う見直しによるもの

基本目標と具体的な施策

- ・目標 「ひと」・「もの」の交流促進による「産業の活性化」と「安心な暮らしの向上」
- ・基本方針
 - 都市内連携軸を活かした、効率的で便利なまちづくり
 - 既成市街地と各集落及び集落間の連携強化による地域の一体化
 - 公共施設等の利便性向上を図るため、施設へのアクセスを強化
 - 世界ジオパークのまちとして、都市間及び都市内連携軸の強化による交流人口の拡大
 - 来訪者の利便性向上を図るため、各地に点在する観光地やジオサイトへのアクセスを強化する。
 - 市外との交流人口拡大を図るため、都市間連携軸の強化や公共交通機関の利便性向上を図る。
 - 誰もが快適・安全に利用できる、道路と公共交通網の整備
 - 誰もが快適で安全に移動ができるまちづくりを図るため、利用しやすい便利な公共交通網を確保する。
 - 市民生活を支援し地区間相互の連携強化を図るため、公共交通網を整備する。

⑥ 糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト（平成 23.11 策定）

計画期間：平成 24 年度～平成 28 年度（5 年間）

糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト

- 鉄道を利用した交流人口拡大プロジェクト
 - 戦略 1 鉄道イベントの継続的・段階的实施（イベント）
 - 戦略 2 姫川溪谷[大糸線]塩サイトの活性化（花のジオ鉄化プラン）
 - 戦略 3 北陸本線（平行在来線）の利用促進と地域活性化（「マイレール」化促進）

⑦ 地域づくりビジョン（平成 23.12 策定）

計画期間：平成 24 年度～28 年度（5 年間）

- ・趣旨 地区との協議を経て将来像を定め、基本方向を明らかにし、行政と地区住民の協働のまちづくりに向けた指針とする。
- ・地区設定 地区公民館体制の 21 地区とする。
- ・基本方針
 - 自治組織の自主的・主体的な活動の促進や維持・活性化を図るため、地域づくり活動への支援や役割の明確化による協働を推進する。
- ・具体的な施策
 - 市民自らが地域課題を認識し、地域の将来像や主な取組を明らかにする「地域づくりプラン」の策定と、そのプランに基づいて市民が取り組む自主的・主体的な活動に対して支援する。

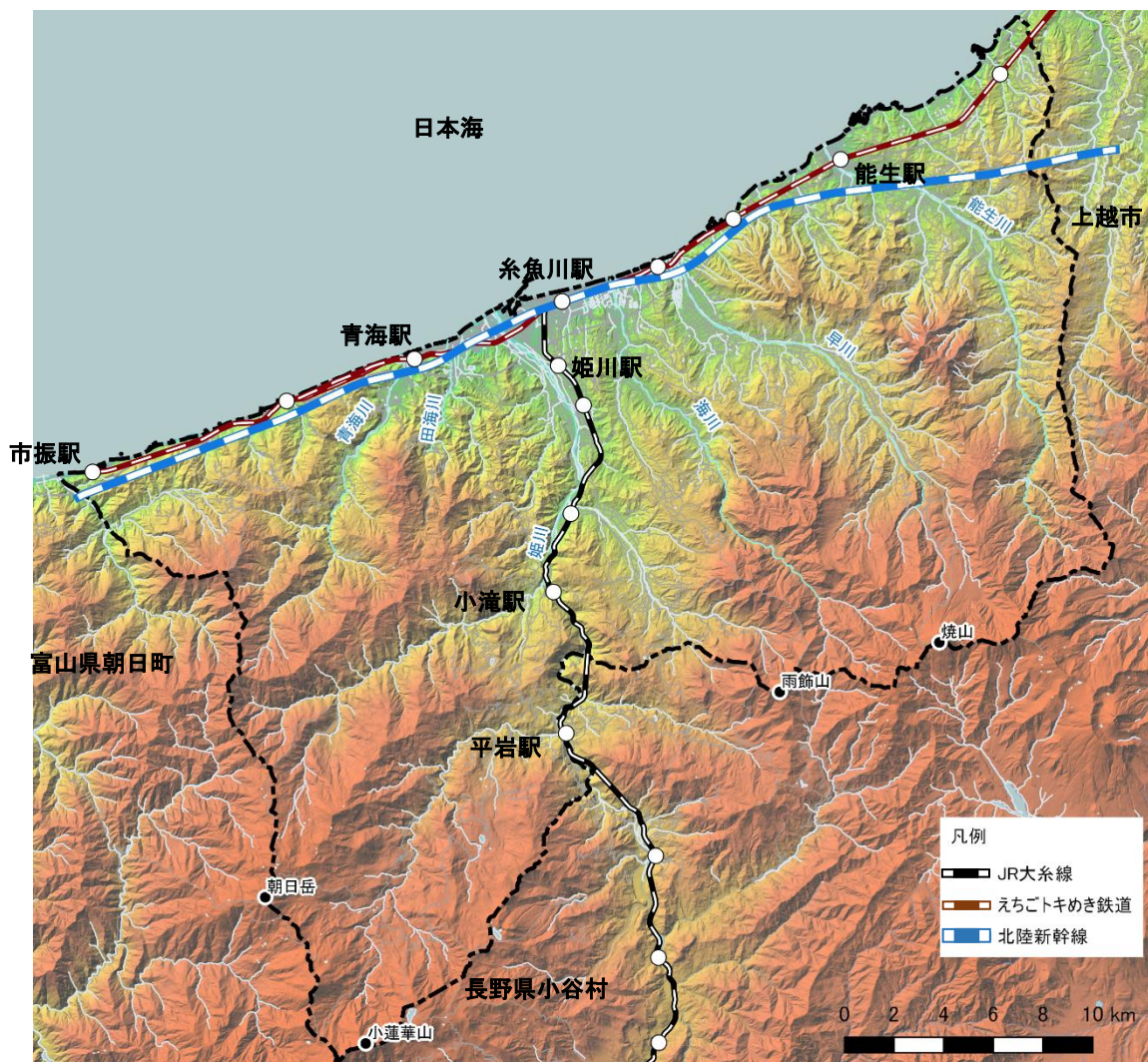
2. 市域の概況の整理

(1) 糸魚川市の成り立ち

- ・糸魚川市は平成17年3月19日に旧糸魚川市、旧能生町、旧青海町が合併し誕生した。
- ・現在糸魚川市は、過疎・辺地・特別豪雪地域等に指定されている。

(2) 地勢

- ・糸魚川市は新潟県の最西端に位置し、北は日本海に面し、西は富山県朝日町、東は上越市、南は長野県小谷村と接している。
- ・海拔0m～3000m級の山々を擁する世界ジオパークのまちであり、地形の変化に富んでいる。
- ・面積は、746.24km²と広大で新潟県総面積の5.9%を占めている。土地利用は、市域の約94.3%は山林等であり、宅地は市域の約1.4%程度である。
- ・南は焼山、雨飾山等の頸城連峰や朝日岳、小蓮華山等の北アルプスが連なる。谷々には、能生川、早川、海川、姫川、田海川、青海川及びその支流が流れている。流域や河口部に集落や市街地が形成されている。



図：糸魚川市地形図
 (出典：地理院タイル「色別標高図」に加筆)

(3) 人口

① 人口と世帯数

- ・市内は旧市町単位で能生地域、糸魚川地域、青海地域に区分されている。
- ・平成 27 年国勢調査速報値による人口は、能生地域 8,541 人、糸魚川地域 27,288 人、青海地域 8,332 人、市全体で 44,161 人である。糸魚川市の新潟県全体に占める人口の割合は 1.92%である。
- ・人口密度は能生地域 56.8 人/km²、糸魚川地域 58.5 人/km²、青海地域 64.5 人/km²である。市全体では 59.2 人/km²であり、県全体の人口密度よりも低い。
- ・前回調査（平成 22 年）との増減をみると、すべての地域で人口が減少している。世帯数についても同様に新潟県全体では増加しているが、すべての地域で減少している。
- ・地域別では 3 地域の中で最も人口が多いのは糸魚川地域であり、市全体の 61.8%を占める。
- ・前回の国勢調査と比較して、人口減少率が最も大きいのは能生地区で 8.33%である。
- ・住民基本台帳による平成 28 年 4 月 1 日の糸魚川市の総人口は、能生地域 8,724 人、糸魚川地域 27,577 人、青海地域 8,468 人、合計 44,769 人である。65 歳以上の高齢者は、能生地域 38.7%、糸魚川地域 36.1%、青海地域 38.2%、市全体では 37.0%であり、高齢化が進んでいる。

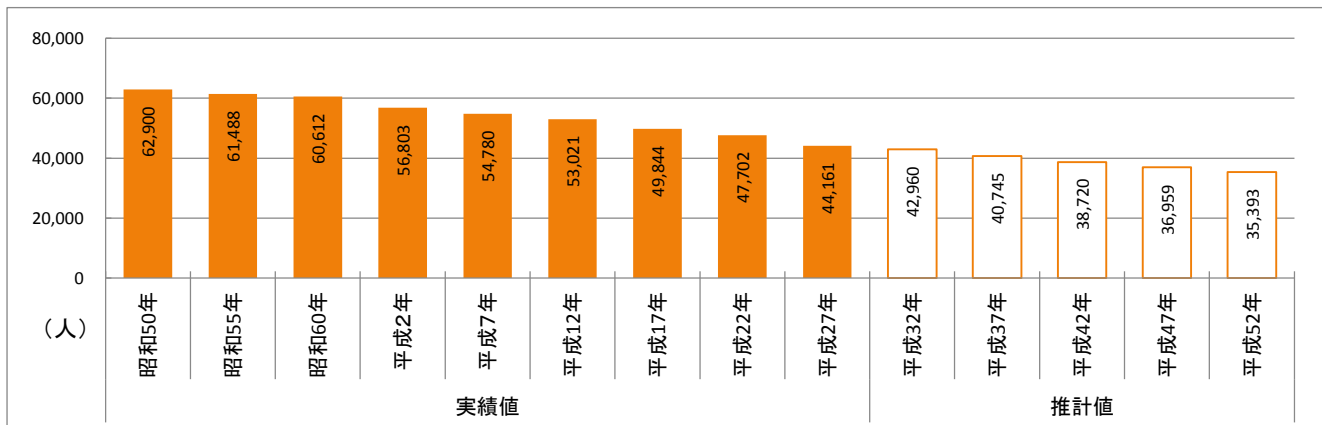
表：糸魚川市人口
(出典：平成 27 年国勢調査 速報値)

地域名	総数 (人)	男 (人)	女 (人)	世帯数 (世帯)	世帯 当たり 人員 (人/世帯)	面積 (km ²)	人口 密度 (人/km ²)	H22～H27 人口増減		人口 構成比 (県) %
								人口 (上段：人) (下段：%)	世帯 (上段：世帯) (下段：%)	
県合計	2,305,098	1,115,579	1,189,522	848,199	2.72	12,584.1	183.2	△69,352 △2.92	9,160 1.09	100.0
市合計	44,161	21,534	22,627	16,711	2.64	746.24	59.2	△3,541 △7.42	△722 △4.14	1.92%
能生	8,541	4,186	4,355	3,002	2.85	150.49	56.8	△776 △8.33	△78 △2.36	0.38%
糸魚川	27,288	13,341	13,947	10,484	2.60	466.62	58.5	△2,083 △7.09	△533 △5.01	1.18%
青海	8,332	4,007	4,325	3,225	2.58	129.13	64.5	△682 △7.57	△91 △2.94	0.36% 1.18%

1. 糸魚川市の現状分析

②人口推移

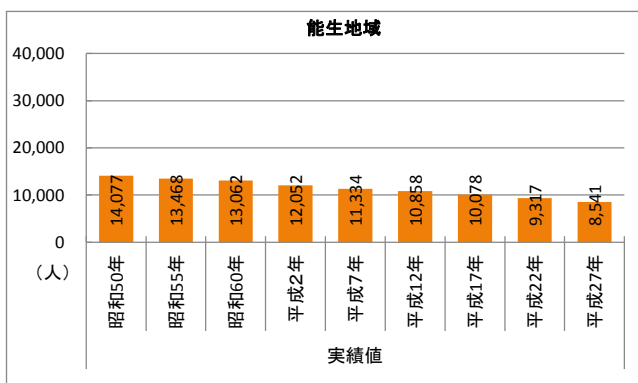
- ・市の人口は昭和 50 年以降減少している。
- ・人口ビジョンにおける将来目標人口は平成 52 年に 35,393 人となり、平成 27 年から平成 52 年までの 25 年で 19.9%の減少となる。



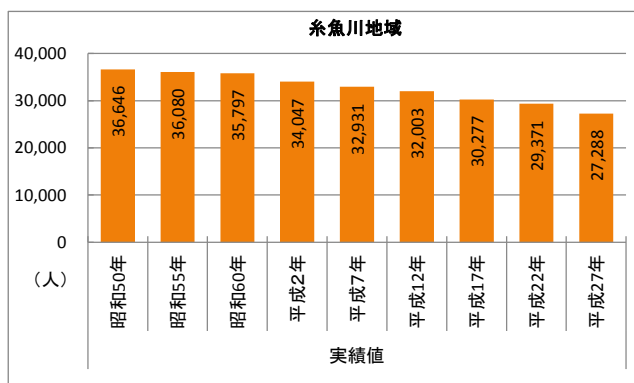
図：糸魚川市人口実績と人口ビジョンによる将来推計
(出典：実績値国勢調査 推計値糸魚川市人口ビジョン)

③地区別人口

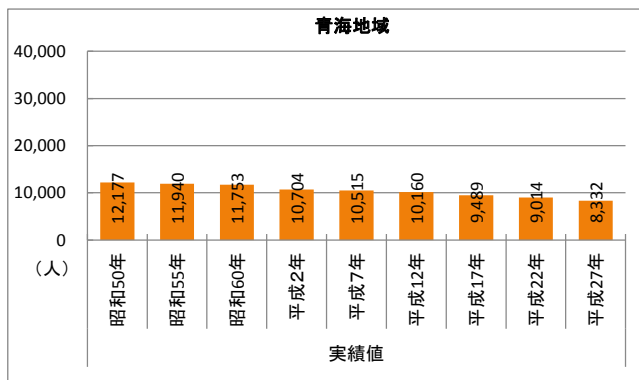
- ・地区別の人口推移では、各地域で人口が減少している。



図：能生地域人口実績
(出典：国勢調査)



図：糸魚川地域人口実績
(出典：国勢調査)

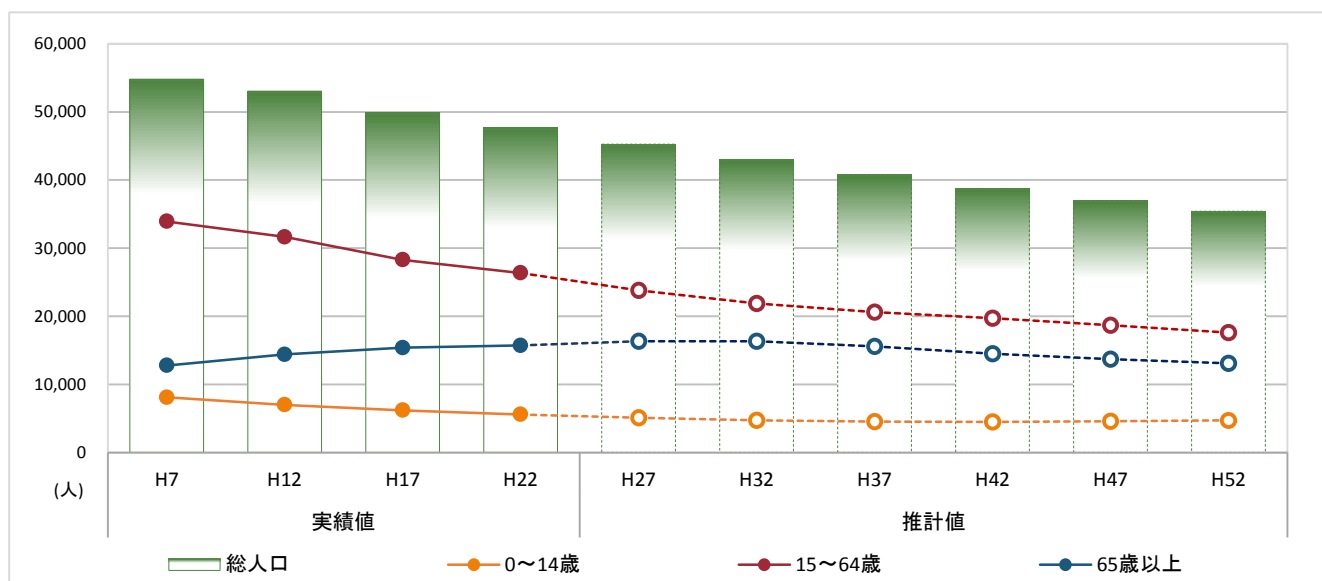


図：青海地域人口実績
(出典：国勢調査)

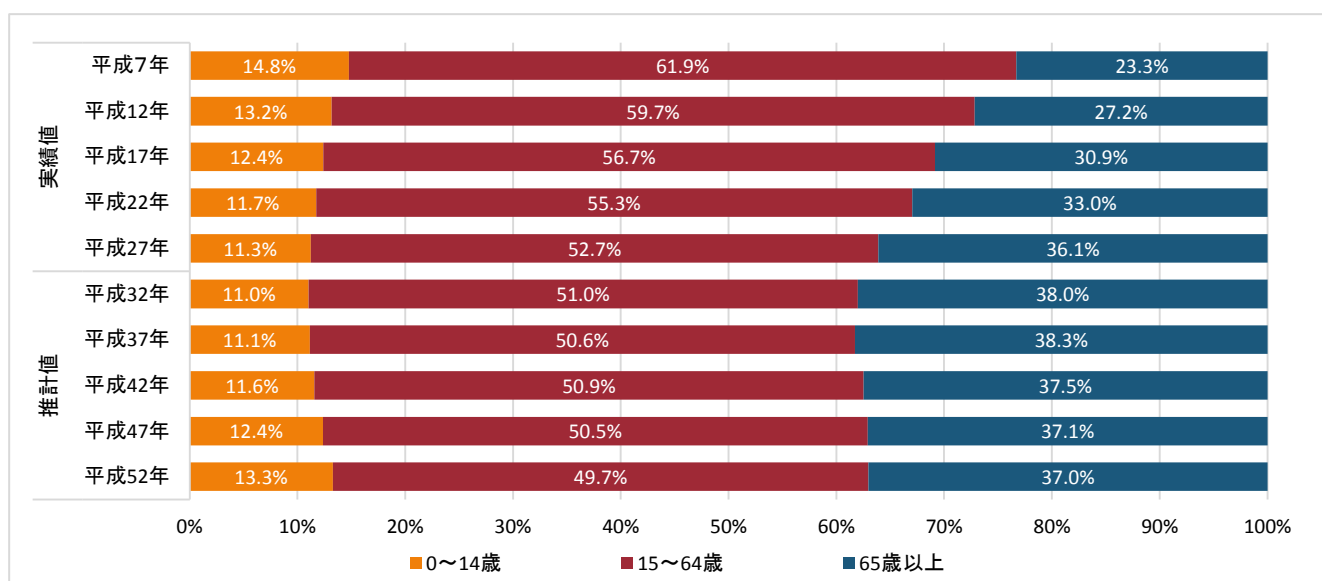
④年齢3区分別の人口推移と人口構成

年齢3区分別の人口推移及び人口構成比をみる。

- ・市全体では、0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は継続して減少傾向にある。65歳以上の老年人口は平成32年を増加のピークとして、以降平成52年までに約16,300人～約13,100人に推移すると推計されている。
- ・年少人口は老年人口よりも少なく、平成52年の時点では総人口の37%が老年人口になる見込みである。
- ・市内の人口構成比をみると、65歳以上の高齢化率は平成7年より増加しており、平成17年に30%を超えている。高齢化率は、平成37年に総人口の38%を超えて以降、減少する推計である。
- ・0～14歳の年少人口は、平成42年に減少のピークを迎え、増加する見込みである。



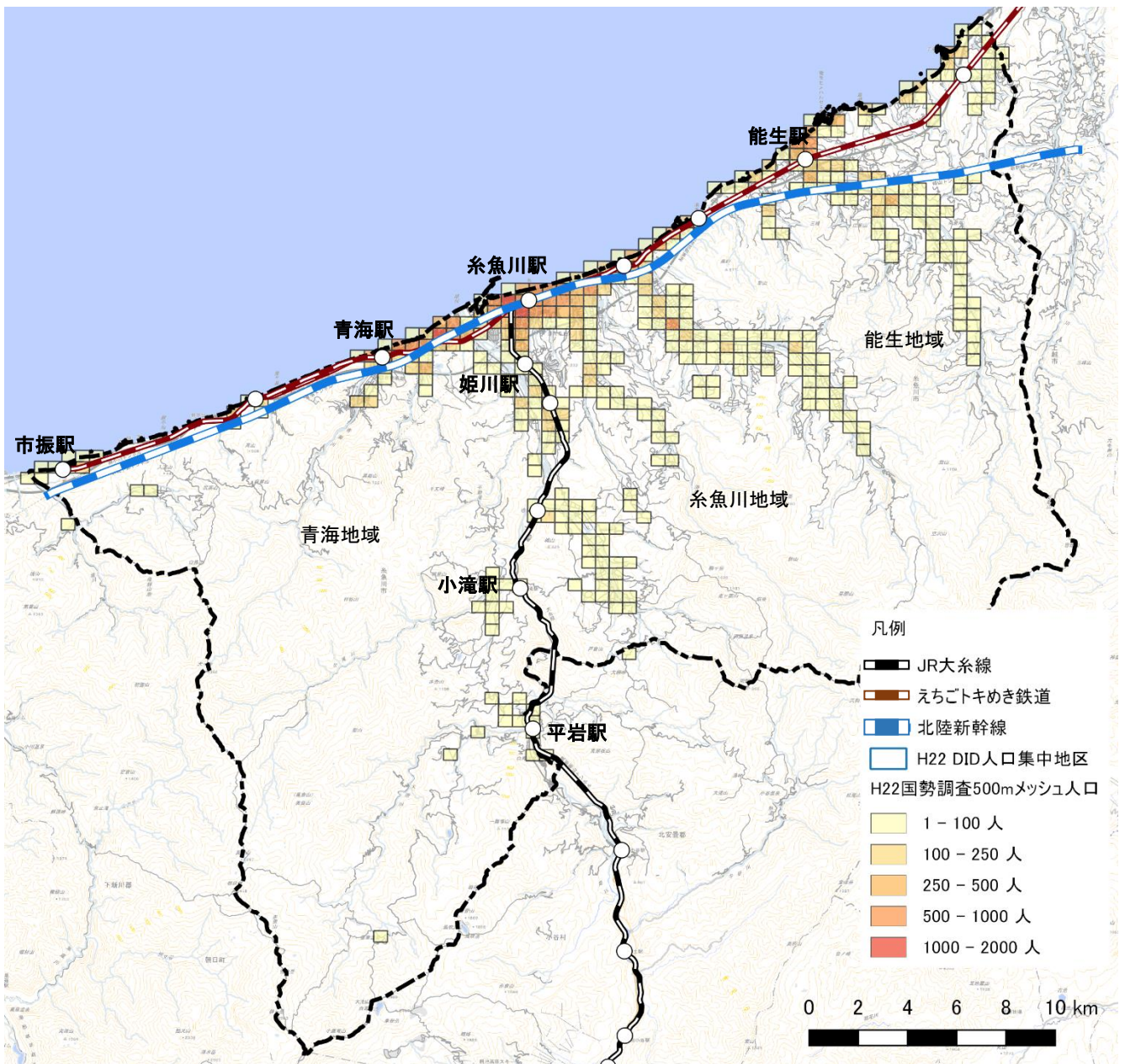
図：年齢3区分別の人口推移
(出典：実績値国勢調査 推計値糸魚川市人口ビジョン)



図：年齢3区分別の人口構成推移
(出典：実績値国勢調査 推計値糸魚川市人口ビジョン)

(4) 人口分布

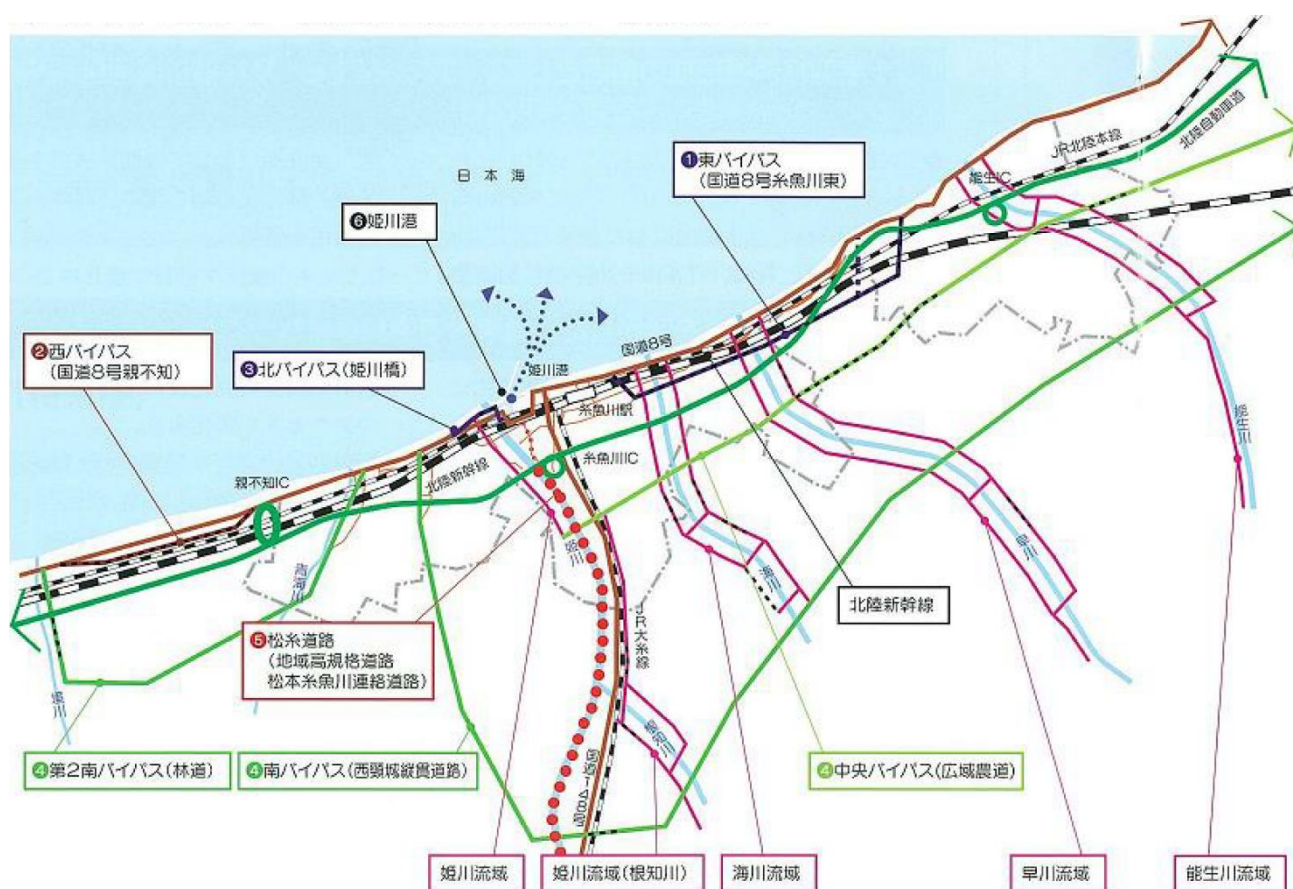
- ・市内の人口はえちごトキめき鉄道日本海ひすいライン沿線及び国道 8 号線沿線に比較的人口が集中している。
- ・糸魚川地域、青海地域に都市的地域の広がりを示す指標である DID (人口集中地区) が都市計画区域の用途区域に形成されている。
- ・山間部や市街地から外れた海岸部は、人口が低密な地域が広がっている。



図：市内における人口分布
(出典：国勢調査)

(5) 市内主要道路網

- ・市の北側、日本海沿いを国道 8 号が横断し、一級河川姫川沿いに国道 148 号が縦貫しており、当市と近隣市町村を結ぶ路線として重要な役割を果たしている。
- ・国道 8 号から、主要河川沿いや谷筋沿いに県道、市道が走っており、生活道路として住民に欠かすことのできない路線となっている。
- ・昭和 63 年から整備を進めてきた都市計画道路中央大通り線が平成 26 年 12 月に全線開通し、国道 148 号と結節した。
- ・中央大通り線は、平成 27 年 4 月 1 日から県道西中糸魚川線に名称を変更した。
- ・国道 8 号とえちごトキめき鉄道、国道 148 号と J R 大糸線が並走している。



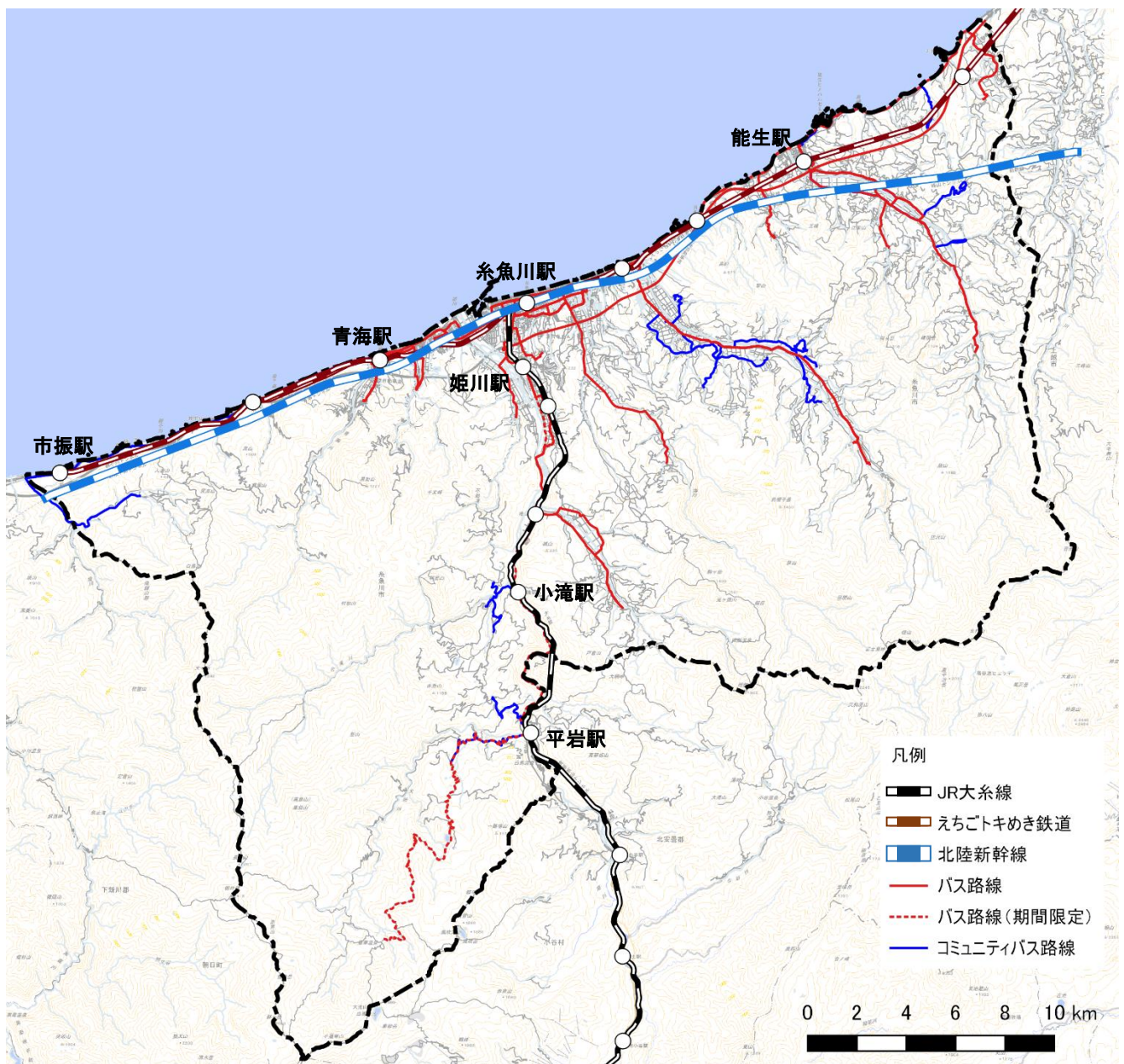
図：市内主要道路

(出典：いといがわ交通ネットワークビジョン 平成 25 年見直し)

3. 公共交通の現状の整理

(1) 市内公共交通網

- ・平成 27 年 3 月 14 日、北陸新幹線長野・金沢間開業により、北陸新幹線糸魚川駅が開業した。同時に市内を通る北陸本線は J R から経営分離され、日本海ひすいラインとしてえちごトキめき鉄道株式会社へ経営移管された。
- ・市内には、えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインと J R 大糸線の在来線が通っており、能生地域 2 駅、糸魚川地域 8 駅、青海地域 3 駅の合計 13 駅がある。
- ・民間バス路線は糸魚川駅や糸魚川総合病院等の市内の各拠点から各地域へ運行しているため、糸魚川市街地は複数の路線が重複している。
- ・コミュニティバス・乗合タクシーは、鉄軌道や民間バス路線が行き届かない地域や山間部等を運行し、地域の医療施設等に向かうための生活の足となっている。



図：平成 28 年度 市内公共交通網
 (出典：市 HP 各運行事業者バス路線図)

(2) 鉄道

① 主要駅における鉄道運行状況

- ・日本海ひすいラインと大糸線との乗り継ぎ駅である糸魚川駅では1日あたり64本、能生駅では1日あたり40本、青海駅では1日あたり38本の列車が発着している。
- ・北陸新幹線糸魚川駅では、停車タイプの「はくたか」が1日あたり30本発着している。
- ・糸魚川駅からは1日1本新潟行の快速列車が運行している。
- ・平成28年より観光列車「雪月花」が糸魚川ー妙高高原間を運行している。

能生駅路線別運行本数

表：能生駅路線別運行本数
(出典：各運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
能生駅	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	18本/日	18本/日	6時台～23時台	6時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	10時台	10時台
				普通	—	—	—	—
			新潟行	普通	—	—	—	—
			快速	1本/日	1本/日	8時台	8時台	
			泊行	普通	14本/日	14本/日	5時台～20時台	5時台～20時台
			快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台	
		市振・泊方面	糸魚川行	普通	4本/日	4本/日	7時台～23時台	7時台～23時台
	快速			1本/日	1本/日	20時台	20時台	

えちごトキめき鉄道：平成28年3月26日 改正

糸魚川駅路線別運行本数

表：糸魚川駅路線別運行本数
(出典：各運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
糸魚川駅	北陸新幹線	東京方面	東京行	はくたか	14本/日	14本/日	7時台～21時台	7時台～21時台
				長野行	はくたか	1本/日	1本/日	22時台
		金沢方面	金沢行	はくたか	15本/日	15本/日	6時台～22時台	6時台～22時台
		JR大糸線	南小谷方面	南小谷行	普通	7本/日	7本/日	6時台～20時台
	平岩行			普通	2本/日	2本/日	6時台、18時台	6時台、18時台
	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	18本/日	18本/日	6時台～22時台	6時台～22時台
				快速	1本/日	1本/日	10時台	10時台
			新潟行	普通	—	—	—	—
				快速	1本/日	1本/日	7時台	7時台
			妙高高原行	観光	—	1本/日	—	14時台
			市振・泊方面	泊行	普通	16本/日	16本/日	6時台～23時台
		快速			1本/日	1本/日	—	11時台、14時台
			高岡行	普通	1本/日	1本/日	7時台	7時台
		金沢行	普通	1本/日	1本/日	6時台	6時台	

JR：平成28年3月26日 改正
えちごトキめき鉄道：平成28年3月26日 改正

1. 糸魚川市の現状分析

青海駅路線別運行本数

表：青海駅路線別運行本数
(出典：運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
青海駅	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	14本/日	14本/日	6時台～21時台	6時台～21時台
				快速	1本/日	1本/日	9時台	9時台
			糸魚川行	普通	4本/日	4本/日	19時台～23時台	19時台～23時台
		市振・泊方面	泊行	普通	16本/日	16本/日	5時台～21時台	5時台～21時台
				快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台
			高岡行	普通	1本/日	1本/日	7時台	7時台
			金沢行	普通	1本/日	1本/日	6時台	6時台

えちごトキめき鉄道：平成28年3月26日 改正

平岩駅路線別運行本数

表：平岩駅路線別運行本数
(出典：運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
平岩駅	JR大糸線	糸魚川方面	糸魚川行	普通	9本/日	9本/日	7時台～21時台	7時台～21時台
		南小谷方面	南小谷行	普通	7本/日	7本/日	6時台～20時台	6時台～20時台

えちごトキめき鉄道：平成28年3月26日 改正

駅構造

- ・市内鉄道駅は、改札からホームまでの経路に階段を利用しなければならない駅が多い。エレベーターが設置されている駅舎は糸魚川駅のみである。
- ・市内にある JR 大糸線の駅はすべて地上駅であり、改札からホームが直結している駅が多い。

■えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン

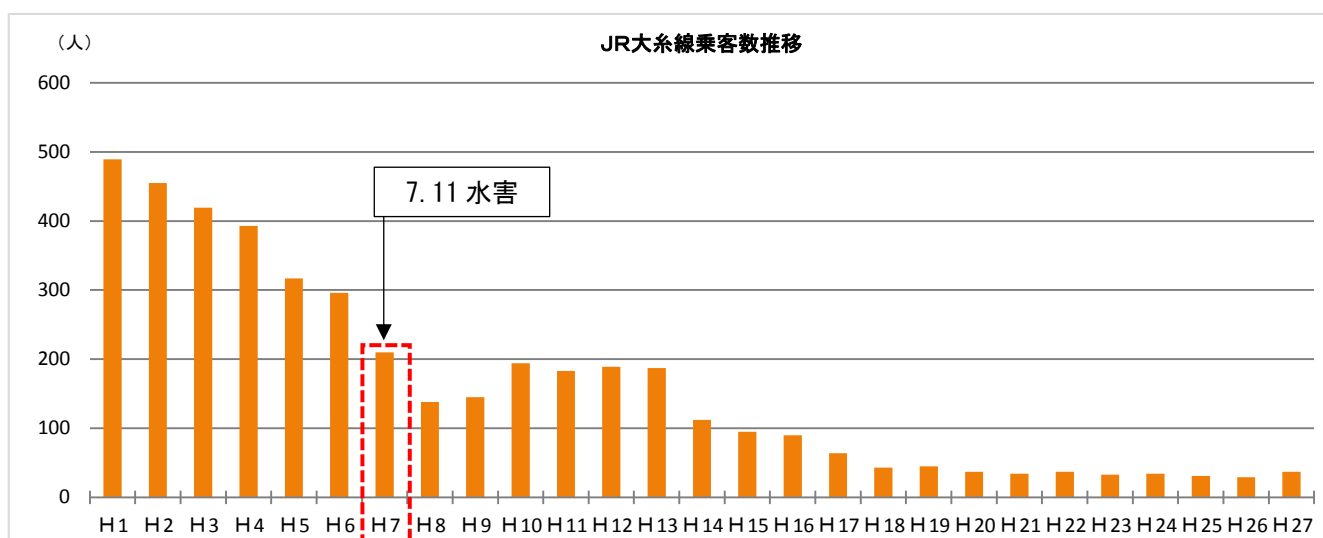
駅名	駅間キロ	接続路線	駅構造	ホーム構造	管理	
筒石駅	7.5km	—	地下駅	2面2線	業務委託駅	有人
能生駅	5.1km	—	高架駅	2面4線		有人
浦本駅	3.5km	—	高架駅	2面2線		無人
梶屋敷駅	4.3km	—	地上駅	2面3線		無人
糸魚川駅		JR西日本北陸新幹線、 JR西日本大糸線	橋上駅	2面4線		有人
青海駅	6.6km	—	橋上駅	2面4線		有人
親不知駅	5.3km	—	地上駅	1面2線		無人
市振駅	8.6km	あいの風とやま鉄道	地上駅	1面2線		無人

■ JR 大糸線

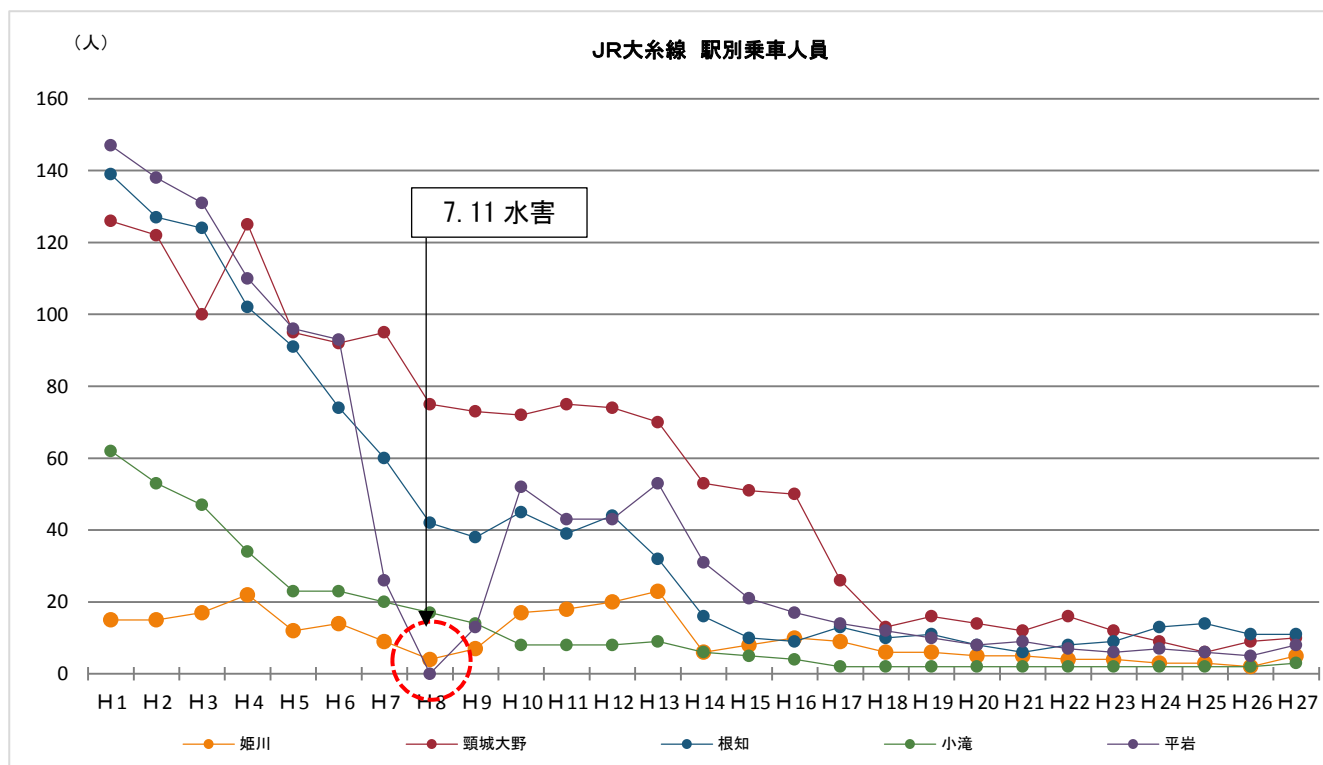
駅名	駅間キロ	接続路線	駅構造	ホーム構造	管理	
姫川駅	3.2km	—	地上駅	1面1線		無人
頸城大野駅	1.9km	—	地上駅	1面1線		無人
根知駅	4.9km	—	地上駅	2面2線		無人
小滝駅	3.6km	—	地上駅	1面1線		無人
平岩駅	6.8km	—	地上駅	1面1線		無人

② JR大糸線の利用状況

- ・平成元年以降、利用者数が減少している。平成18年からは減少が緩やかになっている。
- ・平成7年7月11日、関川流域及び姫川流域に甚大な被害をもたらした「7.11水害」によりJR大糸線は平成8～9年にかけて一時的に利用者数が減少している。平岩駅では平成8年に利用者数が0人となっている。
- ・頸城大野、根知、平岩駅では、平成元年には120人程度の利用があったが、平成27年は20人以下まで減少している。
- ・姫川駅は平成元年から平成27年まで利用者数が10～30人の間で推移している。



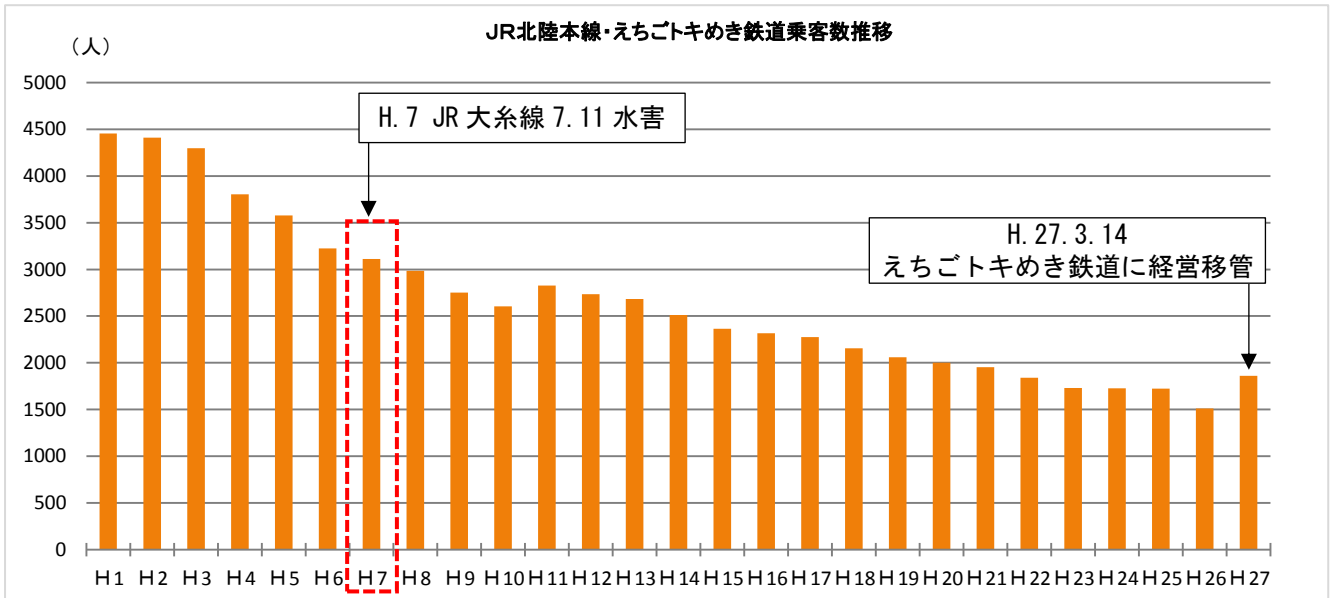
図：JR大糸線利用状況推移
(出典：市資料)



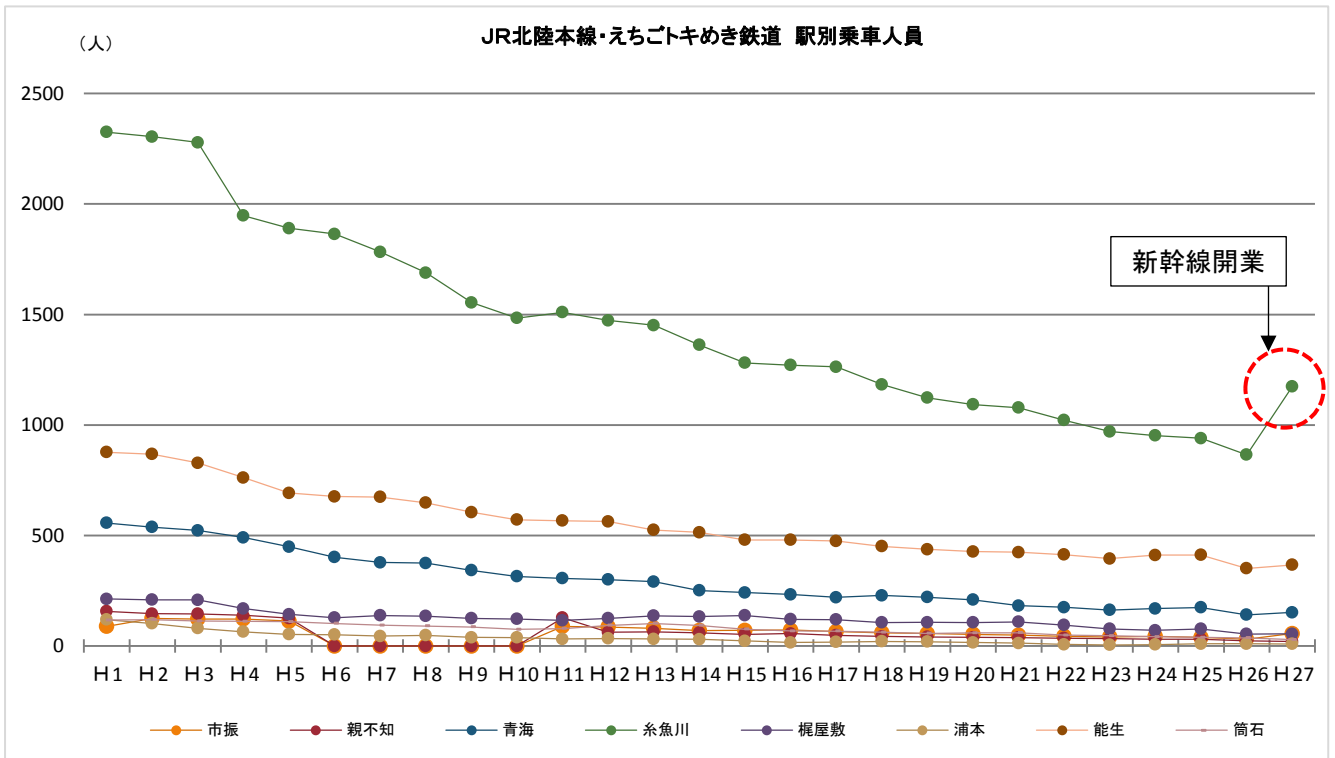
図：JR大糸線駅別乗車人員推移
(出典：市資料)

③北陸本線、えちごトキめき鉄道の利用状況

- ・北陸本線の利用状況では、平成元年以降、利用者数が減少している。
- ・新幹線の開業年であった平成 27 年には利用者数が増加している。
- ・平成 9～10 年に一時的に利用者数が減少している。
- ・駅別に利用状況を見ると、各駅の利用者数は平成元年から減少している。新幹線が開業した平成 27 年には糸魚川駅の利用者数が増加している。



図：JR 北陸本線・えちごトキめき鉄道利用状況推移
(出典：市資料)



図：JR 北陸本線・えちごトキめき鉄道駅別乗車人員推移
(出典：市資料)

(3) バス

① 路線バス

①-1 路線ネットワーク

- ・路線バスとして、糸魚川バス株式会社が市内 16 路線を運行し、頸城自動車株式会社が能生地域から上越市までの 1 路線を運行している。期間限定の白馬岳登山バスを含めると、路線バスは 18 路線運行している。
- ・路線バスのうち、糸魚川駅、または糸魚川総合病院を起点、経由している路線は 12 路線ある。市街地周辺では複数路線が重複している。
- ・能生谷地区では、能生川の左岸・右岸を行き来する複雑な系統が存在している。左岸側の県道と右岸側の市道から能生国保診療所に経由し、バスが回転する場所がないため、経路やバス時刻表がわかりづらい状況である。
- ・焼山温泉、笹倉温泉、中尾長者温泉、フォッサマグナミュージアム等、市内の温泉地や観光地を結ぶ路線バスが運行されている。
- ・高速バスでは、糸魚川駅前と新潟駅前を結ぶ 1 路線を 1 日 2 往復毎日運行している。



図：糸魚川市内バス路線図 (出典：市資料)

1. 糸魚川市の現状分析

①-2 運行状況

- ・糸魚川市の海岸線を通る国道8号の延長は約46kmである。
- ・各路線バスで路線延長が20kmを超えるものが7路線あり、バスの路線延長は長い。
- ・「美山公園・博物館線」は平成27年3月まで運行していた「街めぐりバス」を引き継いで平成27年4月より運行を開始した。「街めぐりバス」は土・日・祝のみの運行であったのに対し、「美山公園・博物館線」は平日も定時運行を行っている。
- ・隣接する富山県朝日町からあさひまちバスが市振に接続している。また、長野県小谷村からのバスが平岩駅に接続している。

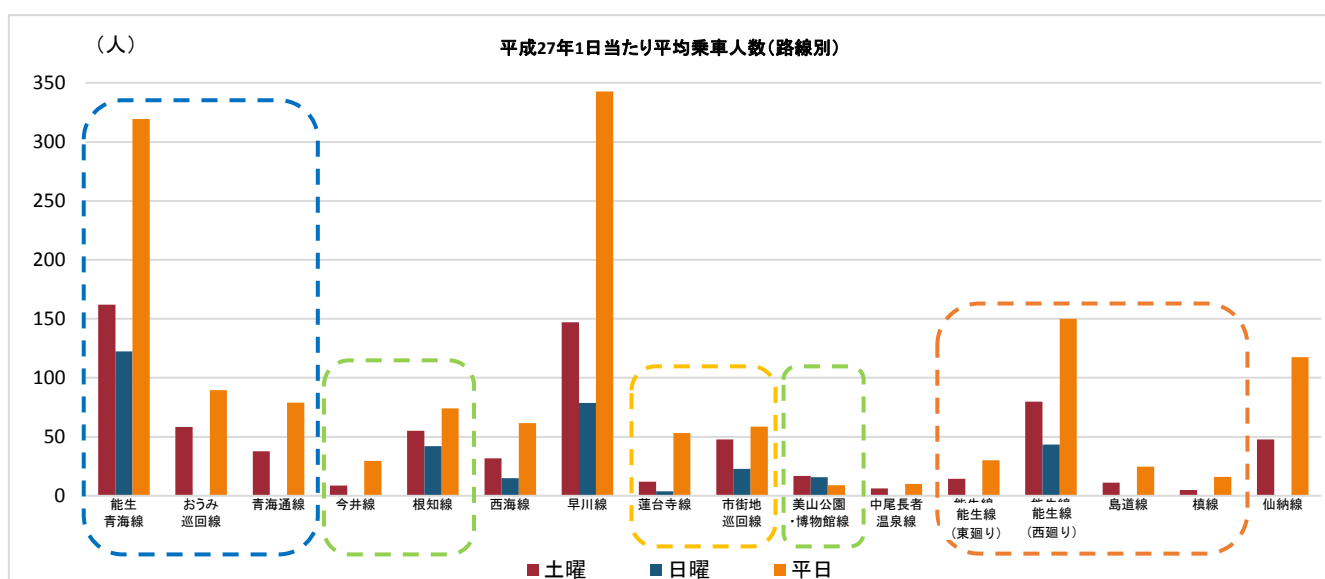
表：路線バス一覧
(出典：各運行事業者HP、時刻表)

路線名	運行事業者	始発-経由-終点	運賃	最大 運行距離	運行本数			運行時間帯		運行本数/時間 (本/h)		
					平日	土曜	日曜・ 祝日	平日(土)	日曜・祝日	平日	(土)	日曜・ 祝日
能生青海線	糸魚川バス	大沢-糸魚川総合病院-能生駅前	140 ~ 850 円	26.3 km	40	38	23	6時台~19時台	6時台~18時台	3.1	2.9	1.9
おうみ巡回線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-おうみ巡回-大沢	100 ~ 310 円	19.4 km	5	5	—	6時台~15時台	—	0.6	0.6	—
青海通り線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-青海通り-大沢	140 ~ 600 円	13.1 km	8	8	—	7時台~18時台	—	0.7	0.7	—
今井線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-糸魚川駅日本海口-中谷内	140 ~ 480 円	9.9 km	11	4	—	8時台~18時台 (7時台、12時台)	—	1.1	0.6	—
根知線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-糸魚川駅日本海口-別所	140 ~ 820 円	21.8 km	16	16	10	7時台~17時台	8時台~17時台	1.6	1.6	1.1
西海線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-糸魚川総合病院-来海沢	140 ~ 520 円	13.4 km	12	12	8	7時台~18時台	7時台~18時台	1.1	1.1	0.7
早川線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-糸魚川総合病院-焼山温泉-笹倉温泉	140 ~ 730 円	22.1 km	24	24	10	6時台~18時台	6時台~17時台	2.0	2.0	0.9
蓮台寺線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-蓮台寺入り口-糸魚川総合病院	140 ~ 490 円	6 km	9	5	2	7時台~18時台	8時台~9時台	0.8	0.5	2.0
市街地巡回線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-市街地巡回-糸魚川駅日本海口	100 ~ 100 円	12.3 km	7	7	7	8時台~14時台	8時台~14時台	1.2	1.2	1.2
美山公園・博物館線	糸魚川バス	糸魚川駅アルプスロ-フォッサマグナミュージアム- 糸魚川駅アルプスロ	100 円	7.8 km	8	8	8	9時台~16時台	9時台~16時台	1.1	1.1	1.1
中尾長者温泉線	糸魚川バス	能生駅前-木浦-中尾長者温泉	140 ~ 340 円	6.8 km	6	4	—	12時台~18時台 (12時台~17時台)	—	1.0	0.8	—
能生線(東廻り)	糸魚川バス	横町五丁目-国保診療所-西飛山	140 ~ 950 円	29.7 km	2	2	—	8時台~13時台	—	0.4	0.4	—
能生線(西廻り)	糸魚川バス	横町五丁目-国保診療所入口-西飛山	140 ~ 580 円	28.8 km	18	18	10	8時台~18時台	8時台~17時台	1.8	1.8	1.1
島道線	糸魚川バス	能生案内所-国保診療所-島道	140 ~ 370 円	7.7 km	6	6	—	7時台~17時台	—	0.6	0.6	—
横線	糸魚川バス	能生案内所-国保診療所-横	140 ~ 350 円	7.5 km	5	3	—	8時台~18時台 (7時台~16時台)	—	0.5	0.3	—
仙納線	糸魚川バス	能生駅前-徳合崎-仙納	140 ~ 660 円	14.9 km	10	10	—	7時台~17時台	—	1.0	1.0	—
能生線(労災病院線)	頸城自動車	能生案内所-磯部小学校入口-労災病院前	140 ~ 1,040 円	30.6 km	4	4	—	7時台~15時台	—	0.5	0.5	—
白馬岳登山バス (蓮華線)	糸魚川バス	糸魚川駅アルプスロ-平岩駅前-蓮華温泉 H28.7.16(土)~8.21(日)	200 ~ 1,790 円	43.8 km	4	4	4	6時台~14時台	6時台~14時台	0.5	0.5	0.5
宮崎境線・市振線	朝日町	泊駅前-朝日総合病院-玉ノ木-市振	200 円	17.1 km	10	—	—	6時台~14時台	—	1.3	—	—
北小谷線	小谷村	千国の庄-南小谷駅-平岩駅前-大綱	200 円	22.2 km	8	—	—	6時台~18時台	—	0.7	—	—
高速バス新潟線	頸城自動車	糸魚川駅前-(北陸自動車道)-新潟駅前	190 ~ 2,850 円	177.1 km	2	2	2	7時台、8時台	7時台、8時台	1.0	1.0	1.0

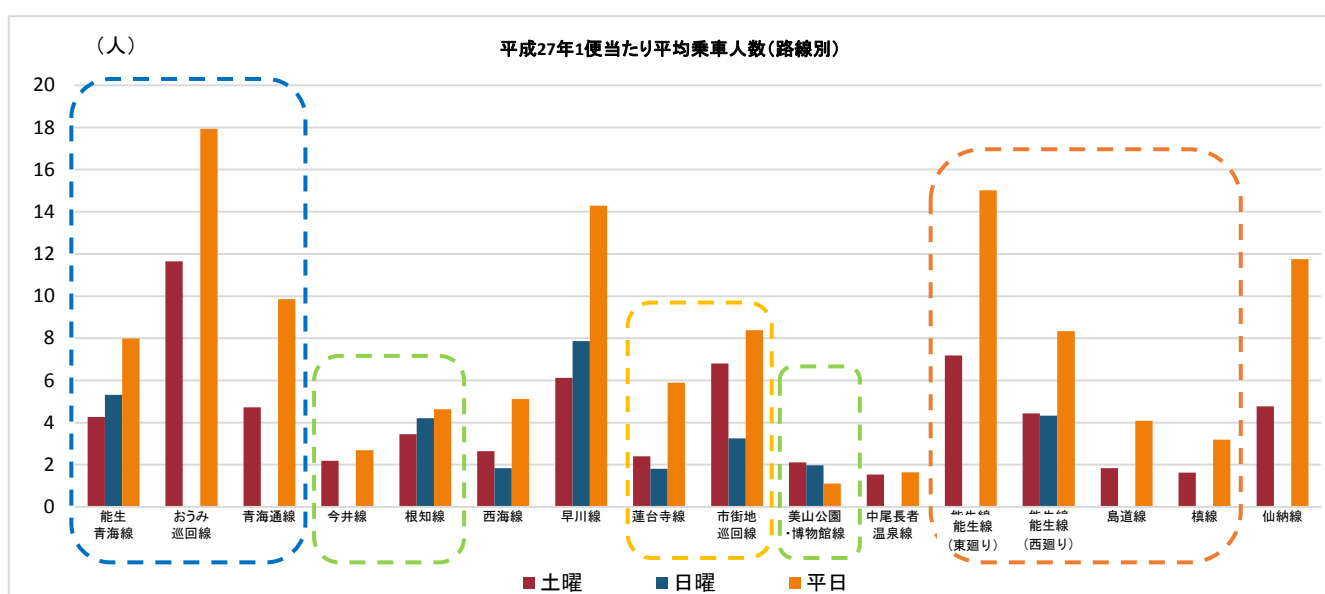
※運行本数/時間 は各便の運行時間帯に対する運行本数を算出している。

①-3 乗客数推移

- ・1日当たり平均乗車人数を見ると、主な利用客は平日の利用客である。能生青海線、早川線は利用者数が多く、土曜日、日曜日の利用客も多い。
 - ・1便当たり平均乗車人数は、平日、休日ともおうみ巡回線が最も多い。次いで早川線、能生線（東周り）が多い。
 - ・美山公園・博物館線は、平成26年まで運行していた街めぐりバスが休日のみでの運行であるため、1月、4月調査の平日利用者の集計がない。平日の利用者数が少なくなっている。
- ※乗降客調査は平成27年1月、4月、7月、10月のそれぞれ14日間（平日10日、土曜2日、日曜2日）実施している。
- ※路線別平均乗客数は、各調査日の乗車人数を集計し、1日当たりの平均乗車人員を算出している。



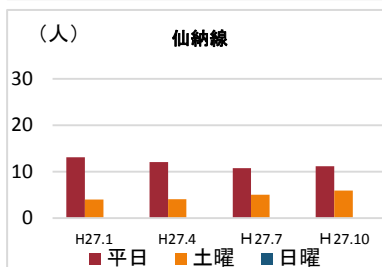
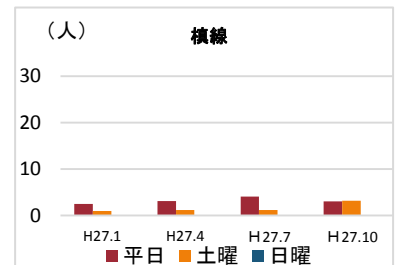
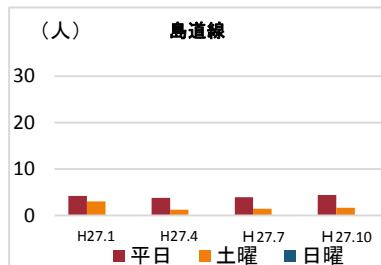
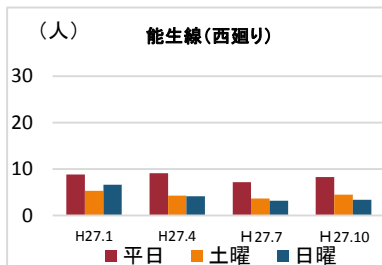
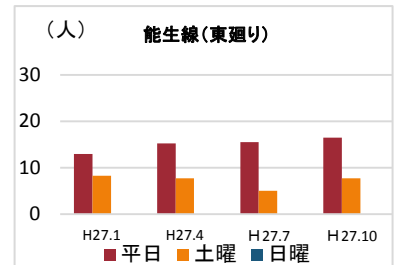
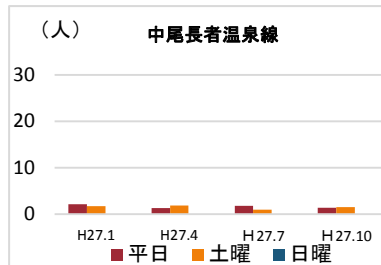
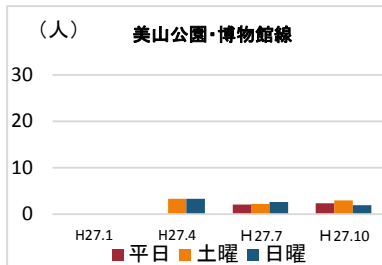
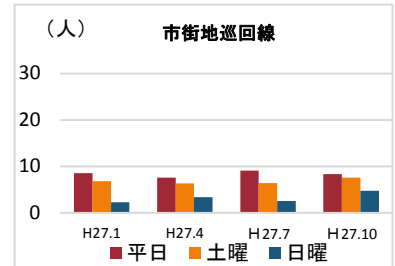
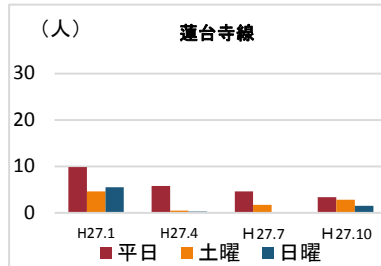
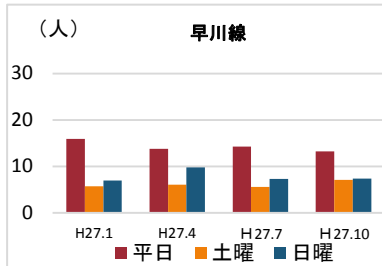
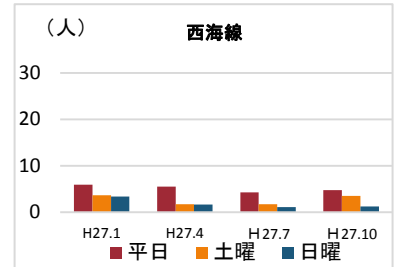
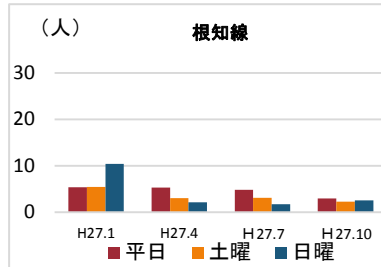
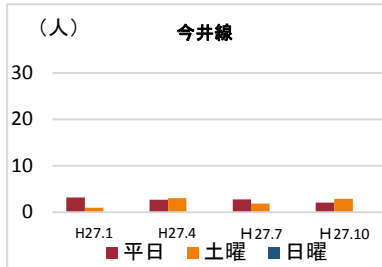
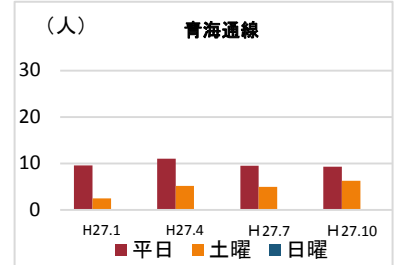
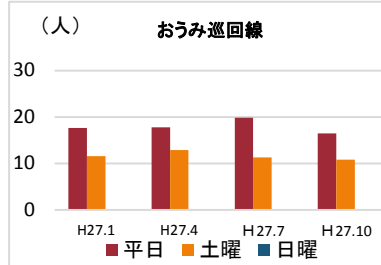
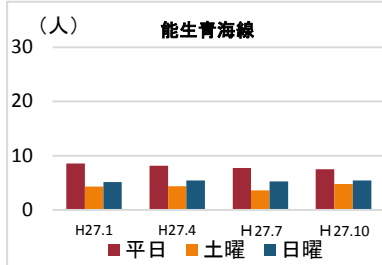
図：平成27年1日当たり平均乗車人数（路線別）
（出典：糸魚川バス株式会社資料）



図：平成27年1便当たり平均乗車人数（路線別）
（出典：糸魚川バス株式会社資料）

1. 糸魚川市の現状分析

- ・路線別に1便当たり平均乗車人数を見る。
- ・平日の乗車人数が土曜、日曜の乗車人数よりも多い路線がほとんどである。
- ・根知線、蓮台寺線は平成27年1月の利用者が他の月と比較して10人程度多い。特に日曜日の利用者が多い。



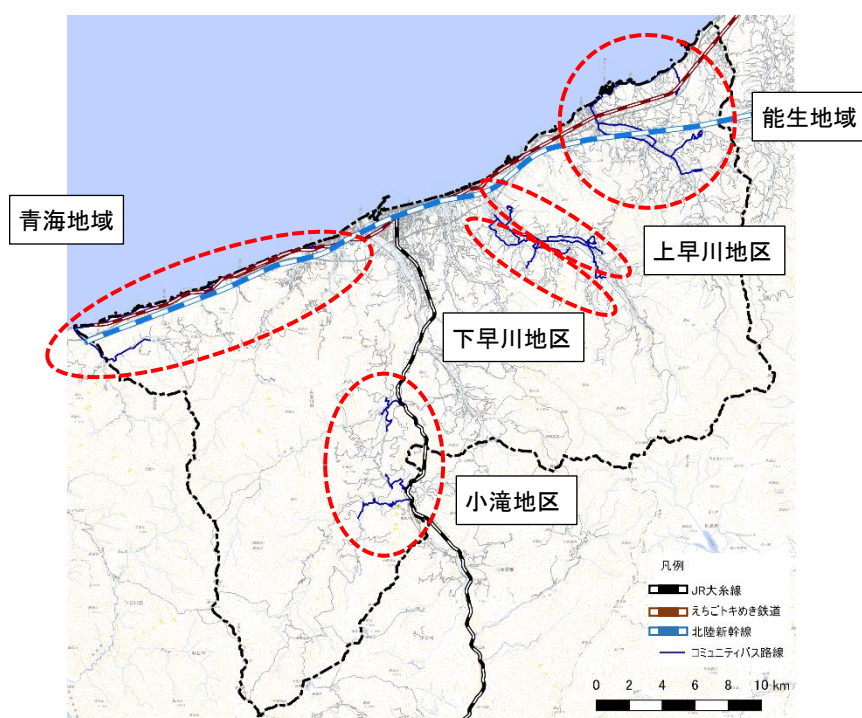
②コミュニティバス・乗合タクシー

②-1 運行状況

- ・路線バス運行地域から離れた場所での移動手段確保として、コミュニティバス(定員11人以上)、乗合タクシー(定員10人以下)をそれぞれ週1日運行している。
- ・道路運送法4条路線として平成23年4月から12路線が運行している。平成25年4月からさらに1路線が追加され、計13路線を運行している。
- ・運行頻度は地区ごとに異なり、1日あたり2便～11便である。料金はすべての路線1回100円で乗車することができる。

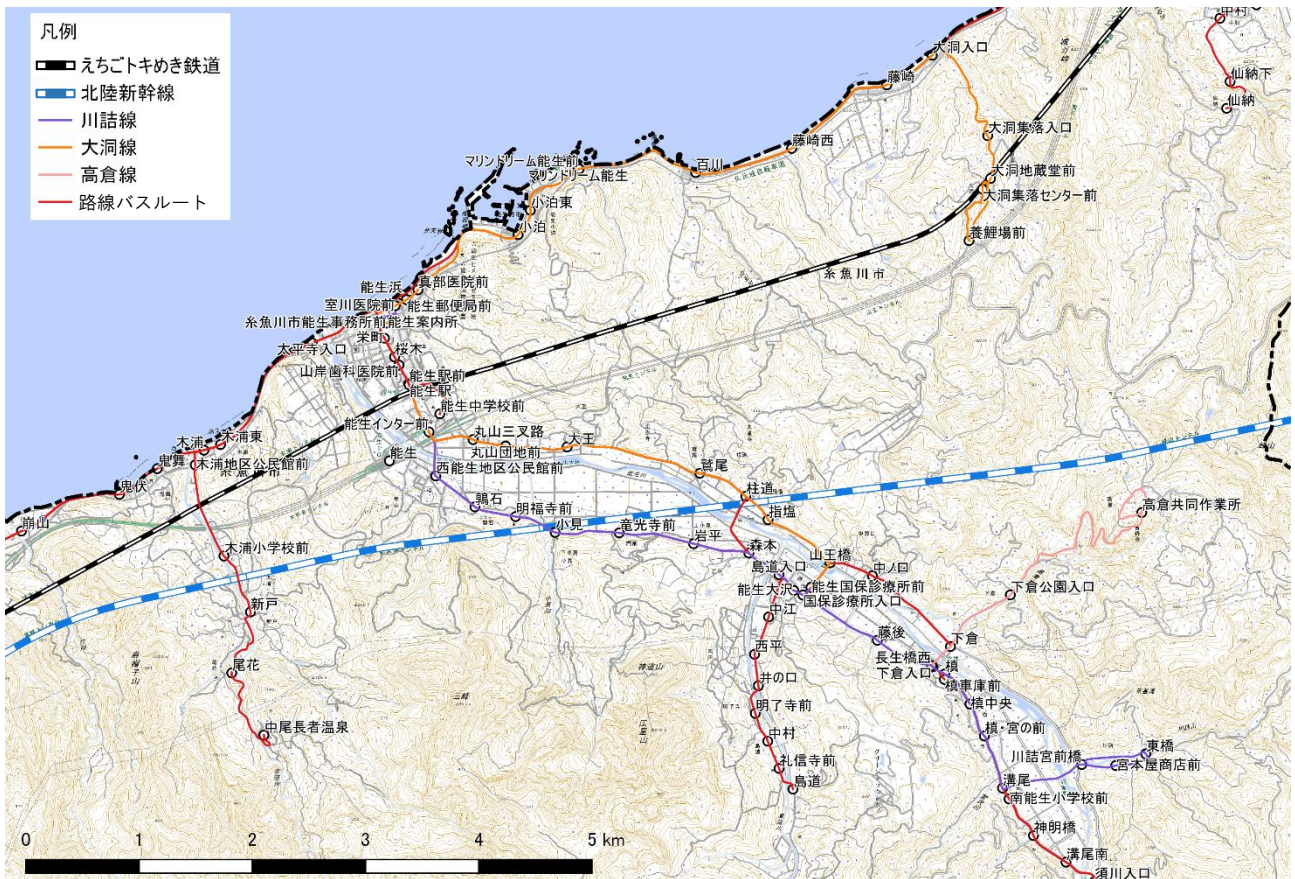
表：コミュニティバス・乗合タクシー一覧
(出典：市資料)

運行地域	路線名	便数/日	曜日	運賃	運行日	運行形態	使用車両	乗客定員	事業者	
能生地域	高倉線(高倉-能生事務所-真部病院)	3	木	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
	川詰線(川詰-能生事務所-真部病院)	3	火	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
	大洞線(大洞~能生国保診療所)	3	水	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
糸魚川地域	小滝地区	夏中・小滝駅線	11	水	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
		山之坊・平岩線	10	月	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
		木地屋・平岩診療所線	8	月	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
	下早川地区	東塚・赤沢・ひばの木線	4	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		高谷根・ひばの木線	4	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		東海・ひばの木線	2	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
	上早川地区	西山線	4	火	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		猿倉・宮平・ひばの木線	4	火	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
	青海地域	きらら青海・玉ノ木線	7	金	100円	週1	定時運行	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸
市振・上路線		2	金	100円	週1	予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	

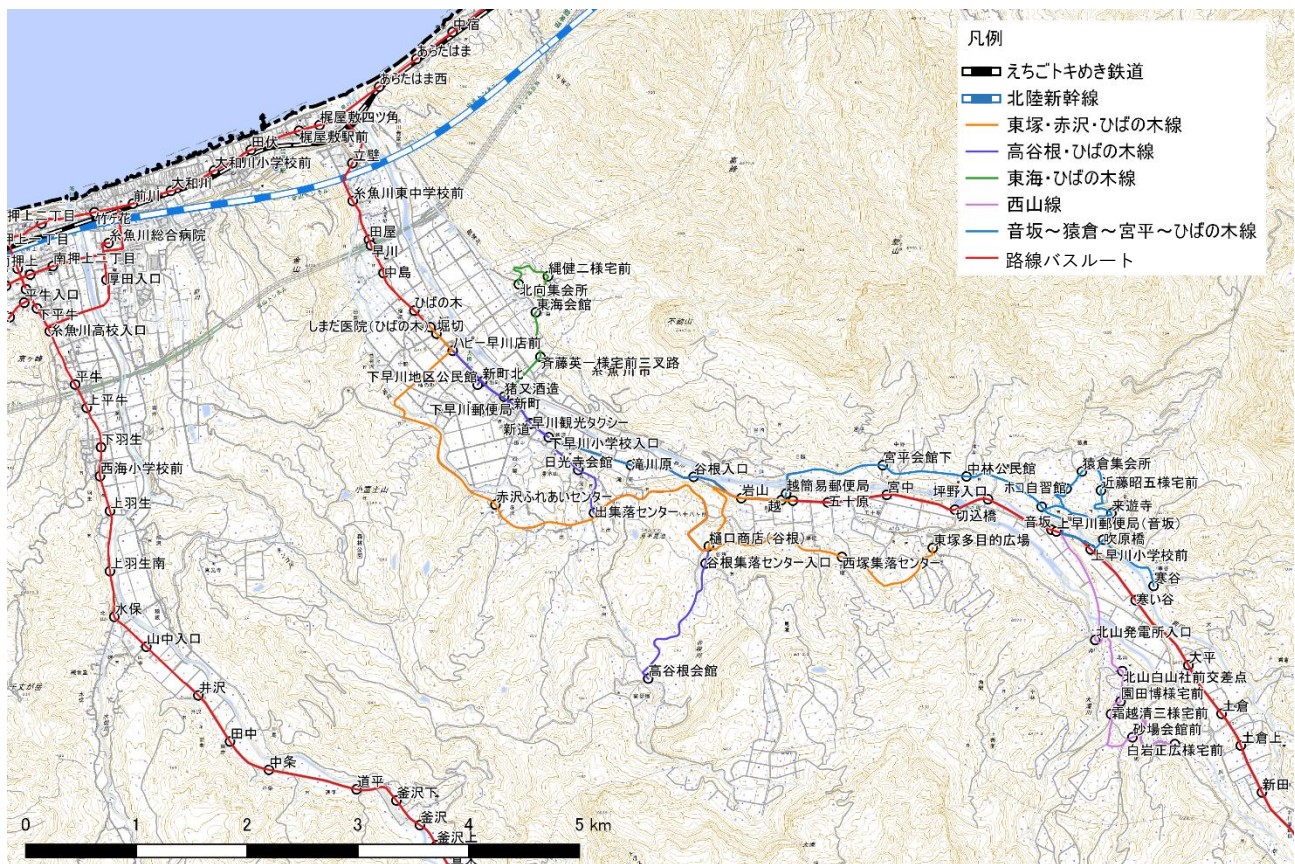


図：平成28年度 コミュニティバス路線網
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

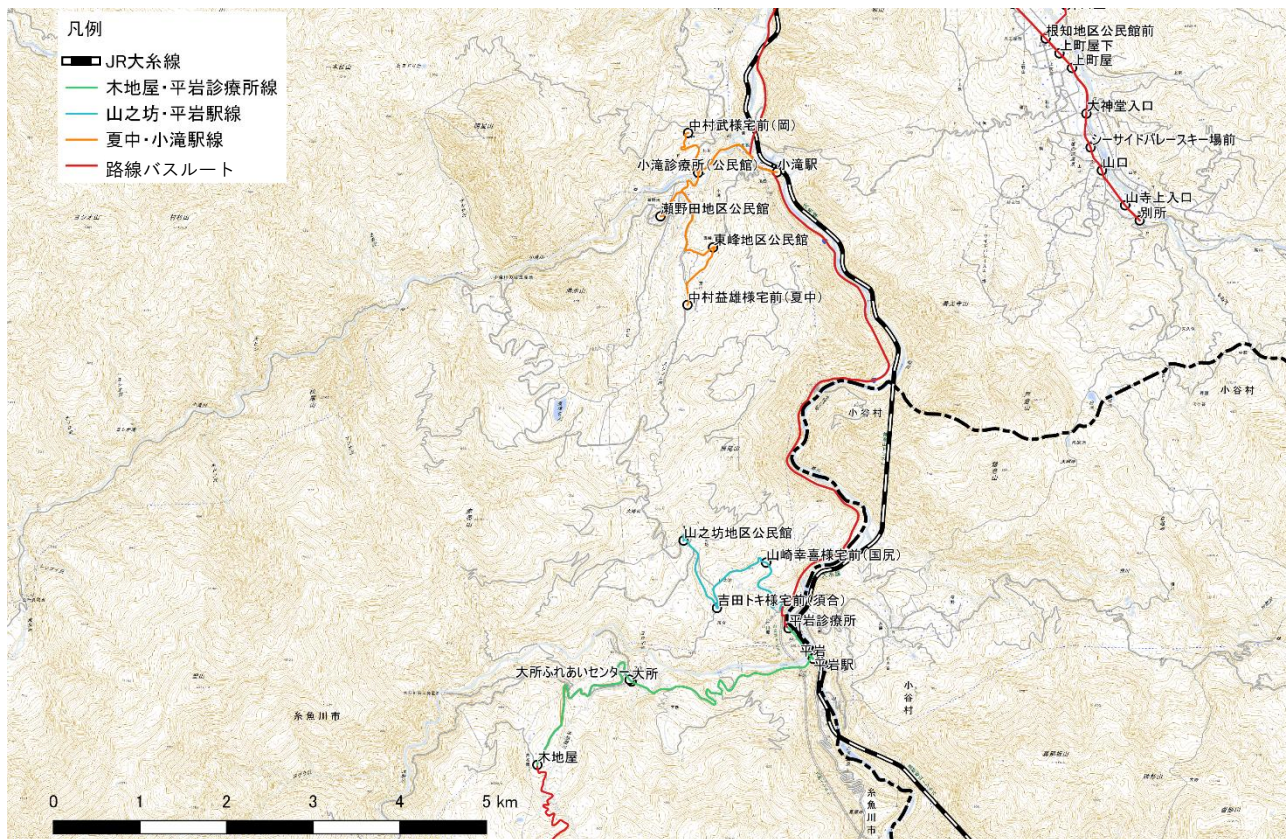
1. 糸魚川市の現状分析



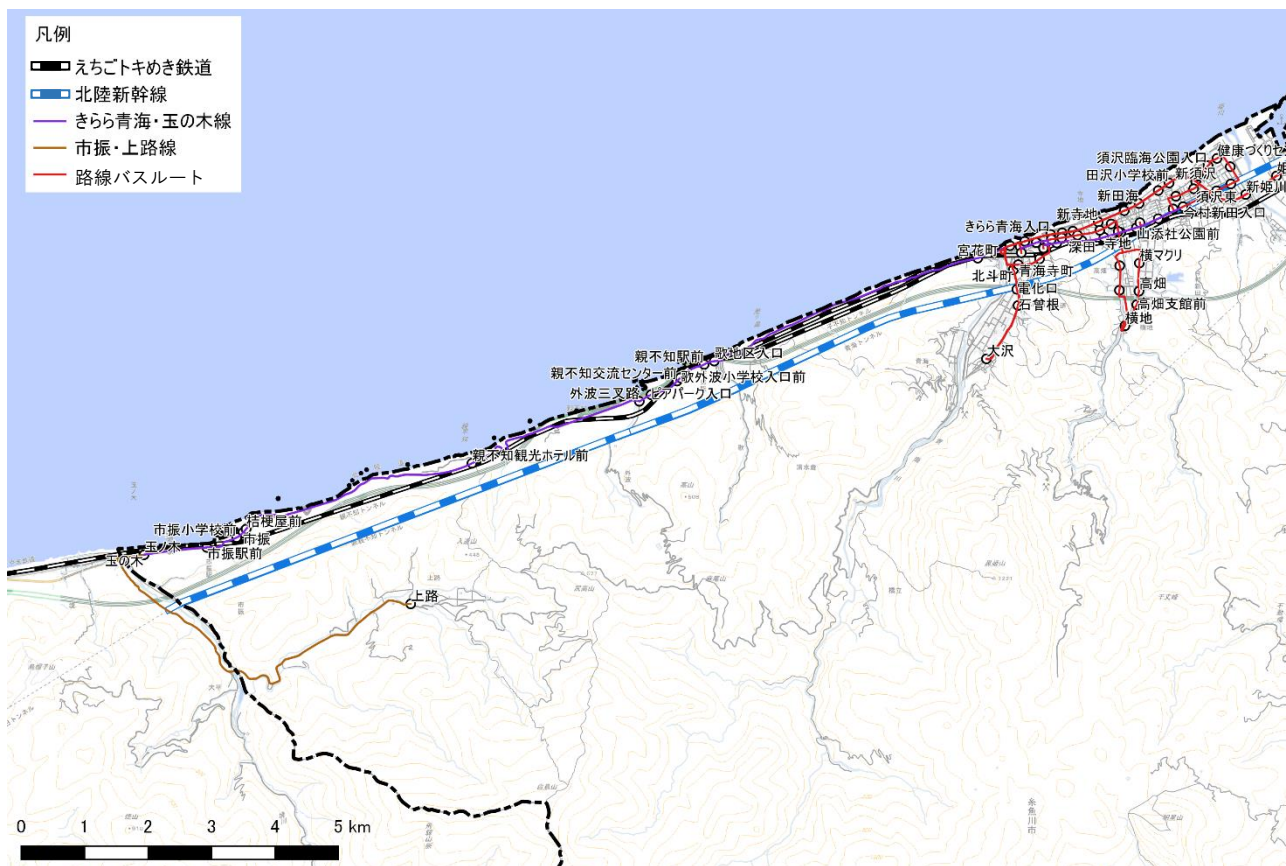
図：平成 28 年度 能生地域コミュニティバス路線
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



図：平成 28 年度 糸魚川地域コミュニティバス路線
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



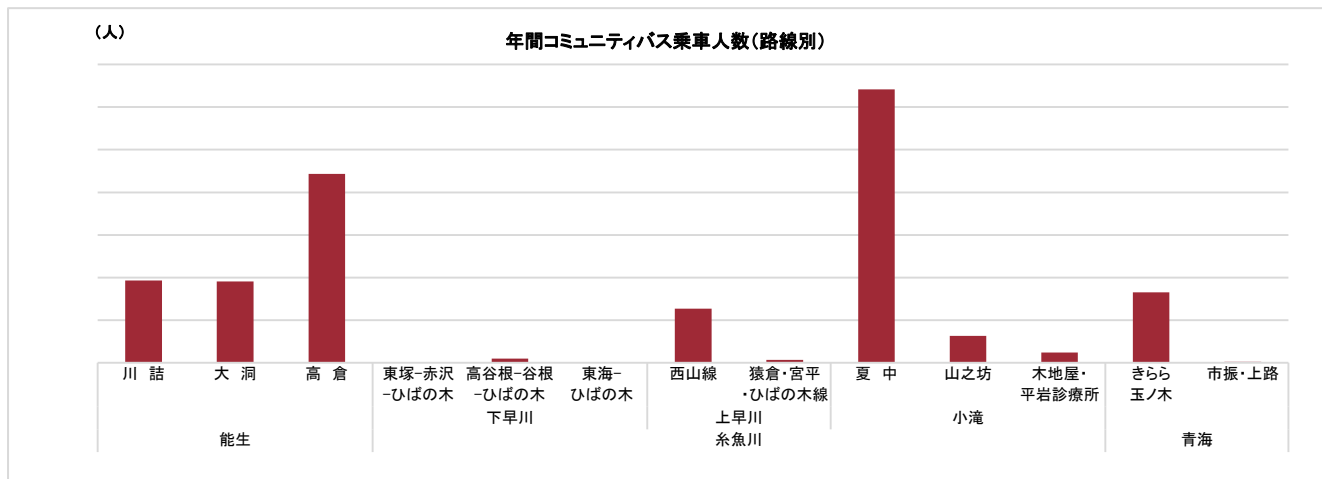
図：平成 28 年度 小滝地区、平岩地区コミュニティバス路線
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



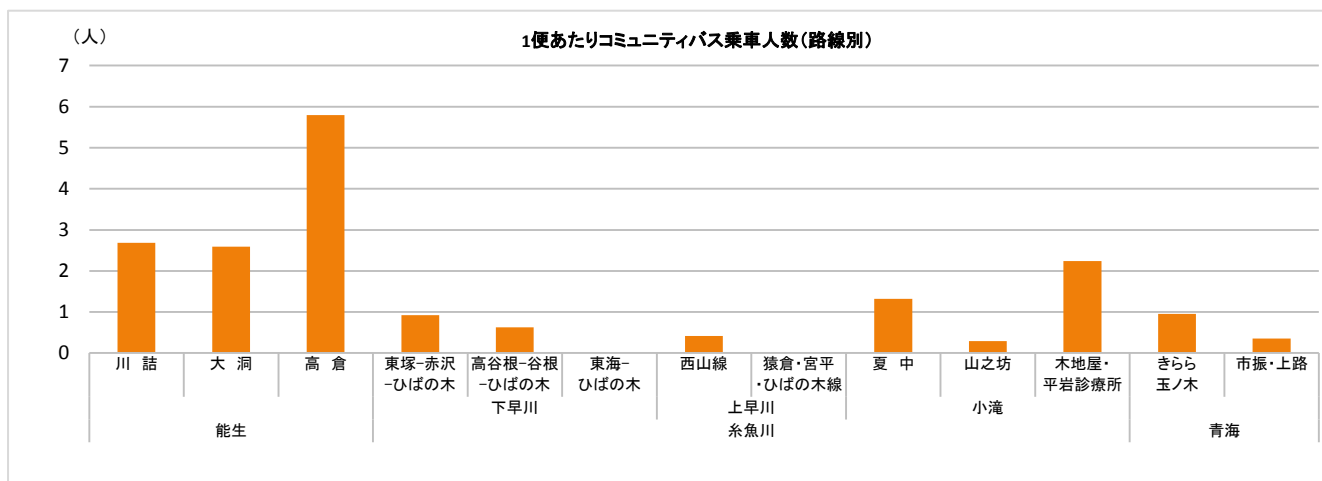
図：平成 28 年度 青海地域コミュニティバス路線
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

②-2 乗客数推移

- ・平成 27 年度のコミュニティバス利用客数は地域によって大きく異なる。
- ・年間のコミュニティバス利用者数は夏中・小滝線が最も多い。
- ・1 便当たりの平均利用者が最も多い路線も夏中・小滝線である。

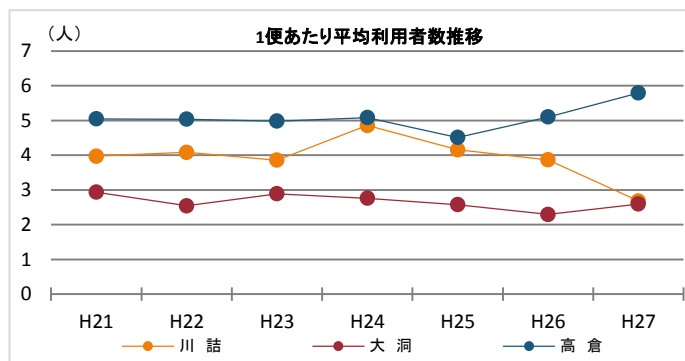


図：平成 27 年度 年間コミュニティバス乗車人数（路線別）
（出典：市資料、各運行事業者バス路線図）



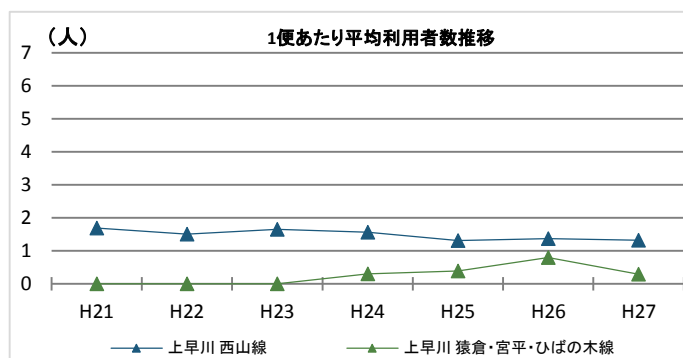
図：平成 27 年度 コミュニティバス 1 便あたり乗車人数（路線別）
（出典：市資料、各運行事業者バス路線図）

能生地域 コミュニティバス（13 人乗り）利用状況



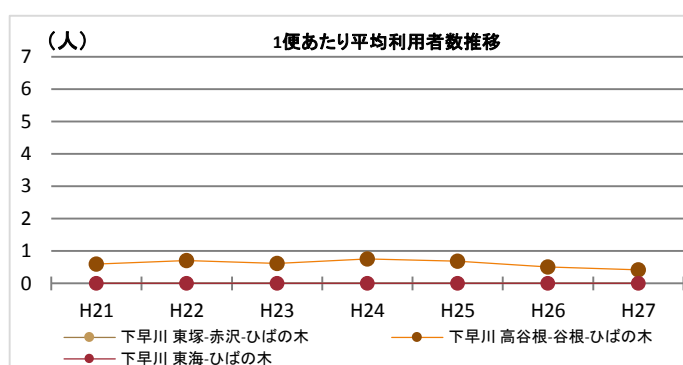
- ・川詰線は平成 24 年以降で 1 便当たりの利用者が約 2 人減少している。
- ・一方、高倉線は平成 25 年以降 1 便当たりの利用者が約 1 人増加している。
- ・大洞線は平成 21 年から 1 便当たりの利用者数は 2～3 人の間で推移している。

糸魚川地域上早川地区 乗合タクシー（4人乗り）利用状況



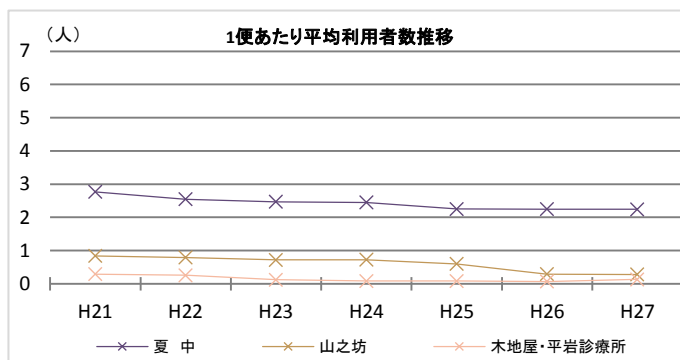
- それぞれの路線は1便当たりの利用者数が2人未満で推移している。
- 猿倉・宮平・ひばの木線は平成23年の運行開始以降、1便当たりの利用者数が増加していたが、平成27年に減少した。

糸魚川地域下早川地区 乗合タクシー（4人乗り）利用状況



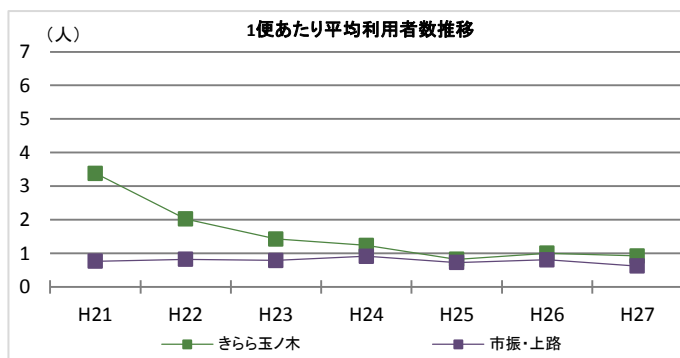
- それぞれの路線は1便当たりの利用者数が1人未満で推移している。

糸魚川地域小滝地区 コミュニティバス（9人乗り）利用状況



- 夏中線の1便当たり利用者数は2~3人の間で推移している。平成21年から減少傾向にある。
- 山之坊線、木地屋・平岩診療所線の1便当たり利用者数は1人未満である。また、平成21年から利用者は減少傾向にある。

青海地域 コミュニティバス（13人乗り）利用状況



- きらら玉ノ木線は、平成21年から平成25年までの1便当たり利用者数は減少し、以降は1便当たり1人で推移している。
- 市振・上路線は平成21年から1便当たり1人未満で運行している。

③その他の公共交通

- ・市内の小学校、中学校の通学が不便な地区では路線バスを利用して通学する地区とスクールバスを運行している地区がある。能生地域の磯部地区、鬼舞、鬼伏地区では、通学時間帯は路線バスが能生中学校まで延長して運行している。柵口地区、田麦平地区、西飛山地区では、路線バスがない時間帯の下校にはタクシー車両をスクールバスとして運行している。
- ・新たな課題として平成30年3月の浦本小学校と市振小学校の閉校に伴い、統合先小学校への通学手段を検討する必要がある。浦本小学校については、大和川小学校への統合の意思決定がなされ、市振小学校は青海小学校への統合に向けた地元での協議が進められている。
- ・青海地域では、市町合併前から地域内に医療機関がない歌・外波・市振・玉ノ木地区において医療機関に向かう無料の送迎車を週1日運行している。平成27年度の年間延利用者数は約1,200人である。
- ・能生地域では、市町合併前から能生地区から中尾長者温泉への利用者の輸送手段として、無料のふれあい送迎を週1日運行している。平成27年度の年間延利用者数は約1,200人である。
- ・市内全域を対象に福祉有償運送を行っている。

表：糸魚川市内スクールバス一覧
(出典：市資料)

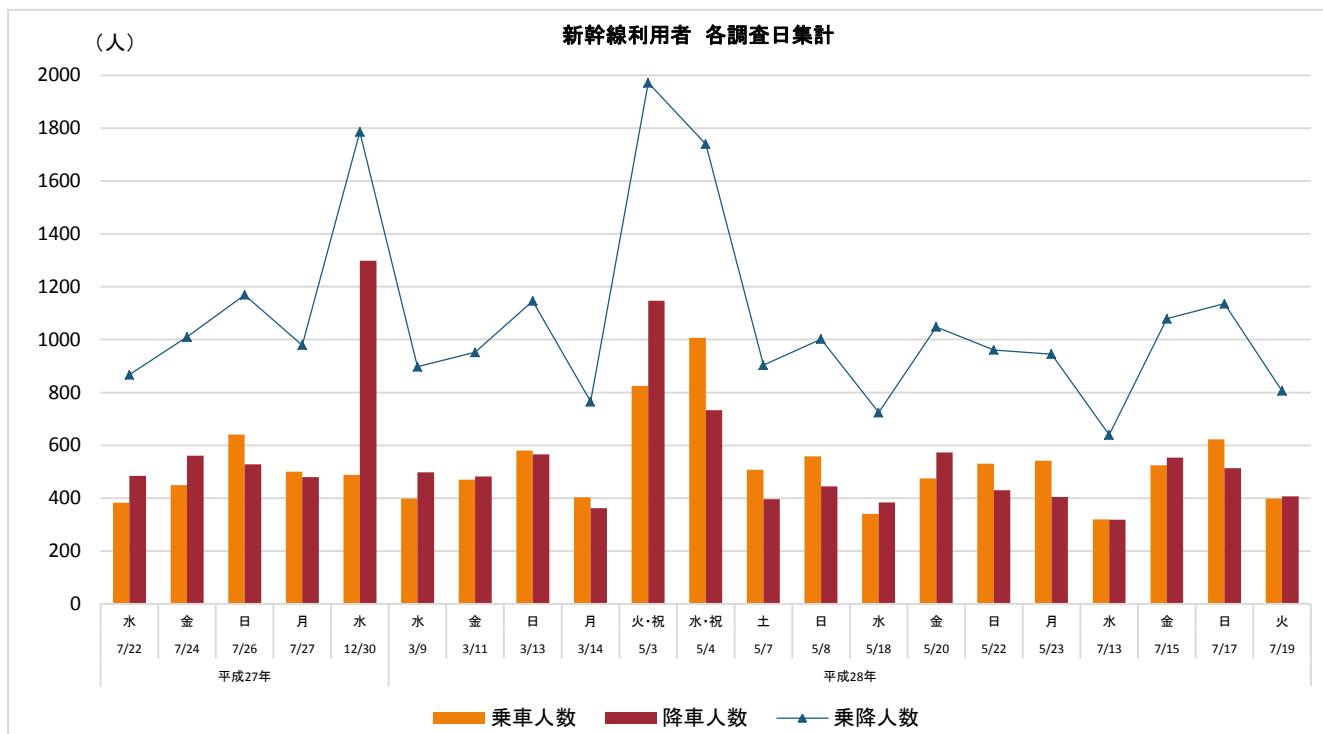
運行地域	目的地	運行形態	運行事業者
能生地域	南能生小学校	スクールバス	地元住民
	能生中学校	スクールバス	※南能生小学校と同乗
	国道8号	スクールバス	地元住民
	南能生小学校	路線バス利用、 タクシー(路線バスのない時間帯)	タクシー：有限会社糸魚川タクシー
	能生中学校	路線バス利用	能生駅－能生中学校間スクールバスとして延長運行
糸魚川地域	糸魚川中学校	スクールバス	糸魚川バス株式会社
	根知小学校	スクールバス	株式会社糸魚川シーサイドバレー
	下早川小学校	路線バス利用	
	西海小学校	路線バス利用	
	糸魚川小学校	路線バス利用	
	大野小学校	路線バス利用	
	糸魚川東中学校	路線バス利用	
青海地域	青海中学校	スクールバス	株式会社ツカダ運輸
	田沢小学校	スクールバス	株式会社ツカダ運輸
	青海幼稚園	送迎バス	株式会社ツカダ運輸
	田沢幼稚園	送迎バス	有限会社糸魚川タクシー

表：その他市内交通
(出典：市資料)

運行地域	運行地区	目的地	運行形態	運賃	運行事業者
能生地域	能生地区	中尾長者温泉	ふれあい送迎	無料	糸魚川市シルバー人材センター
青海地域	歌、外波、市振、 玉ノ木地区	富山県朝日町医療機関 青海地域の医療機関	医療受診者送迎車	無料	株式会社ツカダ運輸
市内全域	市内全域	市内全域	福祉有償運送	有料	NPO法人ぐりーんバスケット

(4) 北陸新幹線

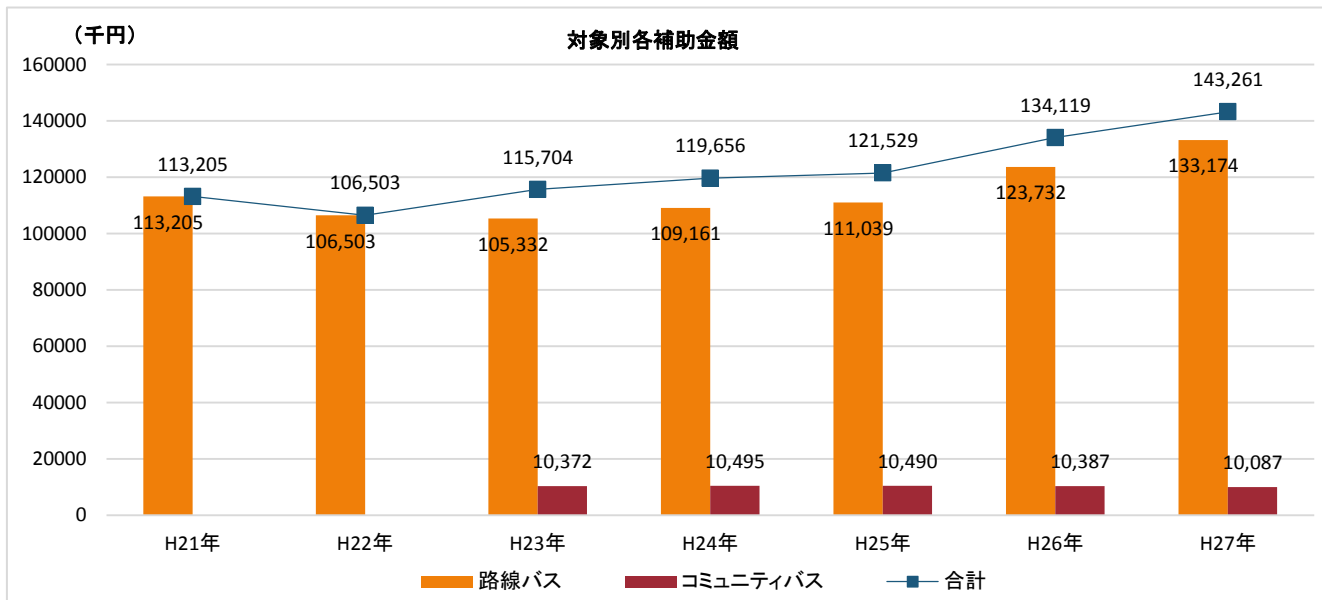
- ・ 全体的に平日よりも休日の新幹線利用者が多い。
- ・ GW期間中は、他の期間よりも利用者が増加し乗車数よりも降車数が多い。帰省、観光に利用されていると推察される。
- ・ 同時期の利用者数を比較すると、平成27年7月の利用者よりも平成28年7月の新幹線利用者数が減少している。
- ・ 年末の降車人数が多いことから、各地から新幹線を利用して市内へ帰省する利用者が多いと推察される。



図：新幹線利用者 各調査日集計
(出典：市資料)

(5) 補助金額

- ・平成 23 年から公共交通にかかる補助金は年々増加している。
- ・コミュニティバスは平成 23 年より補助金を受けて運行している。



図：各種バス路線 対象別各補助金額実績値推移 (出典：市資料)

(6) 公共交通利用促進事業等

- ・糸魚川市で実施している公共交通利用促進事業等は以下の通り。

事業名	対象及び自己負担額	期間	内容
こどもフリーパス	小学生 1,500 円 中学生 3,000 円	6ヶ月	路線バスが乗り放題。 遠距離通学児童・生徒に対して 路線バス等の定期券支給
	小学生 510 円 中学生 1,030 円	1ヶ月	
高齢者・障害者 おでかけバス事業	65歳以上で一定の条件を満たす方 障害のある方 3,000 円	6ヶ月	路線バスが乗り放題
	同上 1,030 円	1ヶ月	
高齢者おでかけ支援タクシー 券交付事業	70歳以上で一定の条件を満たす方 4,000 円	1年間	タクシー運賃の一部助成
障害者交通費助成事業	障害の程度や通所作業所までの距離 により年間 6,000 円～24,000 円	1年間	タクシー券交付
その他利用促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・バス教室 ・ワンコインバス (期日限定 100 円均一運賃) ・路線バス啓発・利用促進資料「みんなでバスにのるまいか～」 ・路線バス出張サロン「よるまいか～」 		

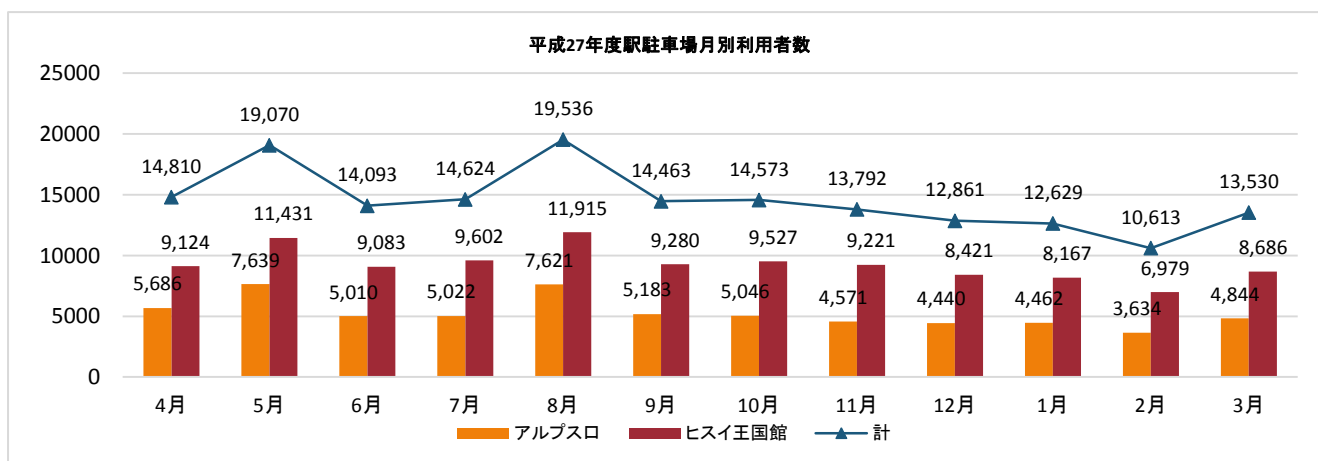
(7) その他

① 駅駐車場概要及び利用状況

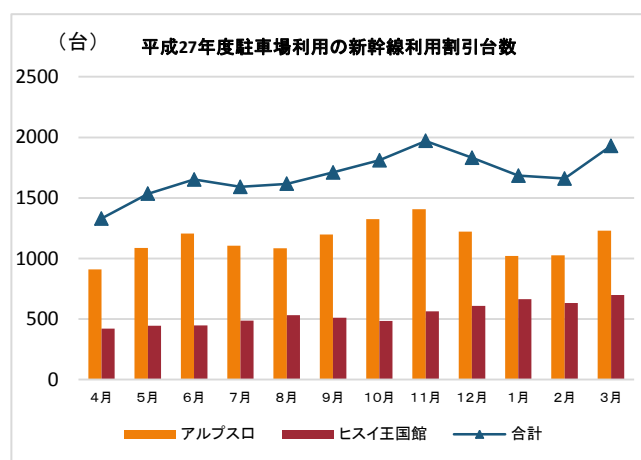
- ・糸魚川駅に接続する駐車場は「糸魚川駅アルプス口駐車場」、「ヒスイ王国駐車場」の2ヶ所である。北陸新幹線利用者に対して「新幹線パーク&ライド」サービスにより、新幹線利用割引が適用される。
- ・平成27年度の駅駐車場利用はアルプス口よりもヒスイ王国館利用が多い。
- ・駐車場利用にあたり、新幹線利用者は割引が適用される。新幹線割引利用者数は、平成27年度よりも平成28年度の方が多傾向にある。

表：糸魚川駅駐車場最大駐車台数、サービス内容
(出典：JR西日本HP、市HP)

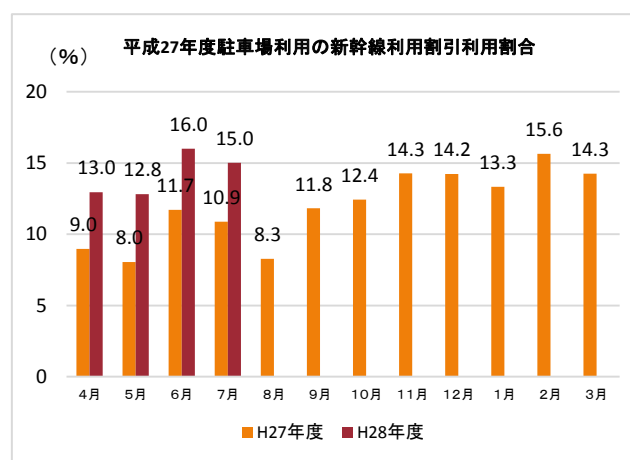
駐車場名	最大駐車台数	新幹線利用によるサービス内容	パーク&ライド予約の有無
糸魚川駅アルプス口駐車場	118台	最大4日間無料	不要
ヒスイ王国駐車場	172台	最大4日間無料	不要



図：月別駅駐車場利用者数
(出典：市資料)



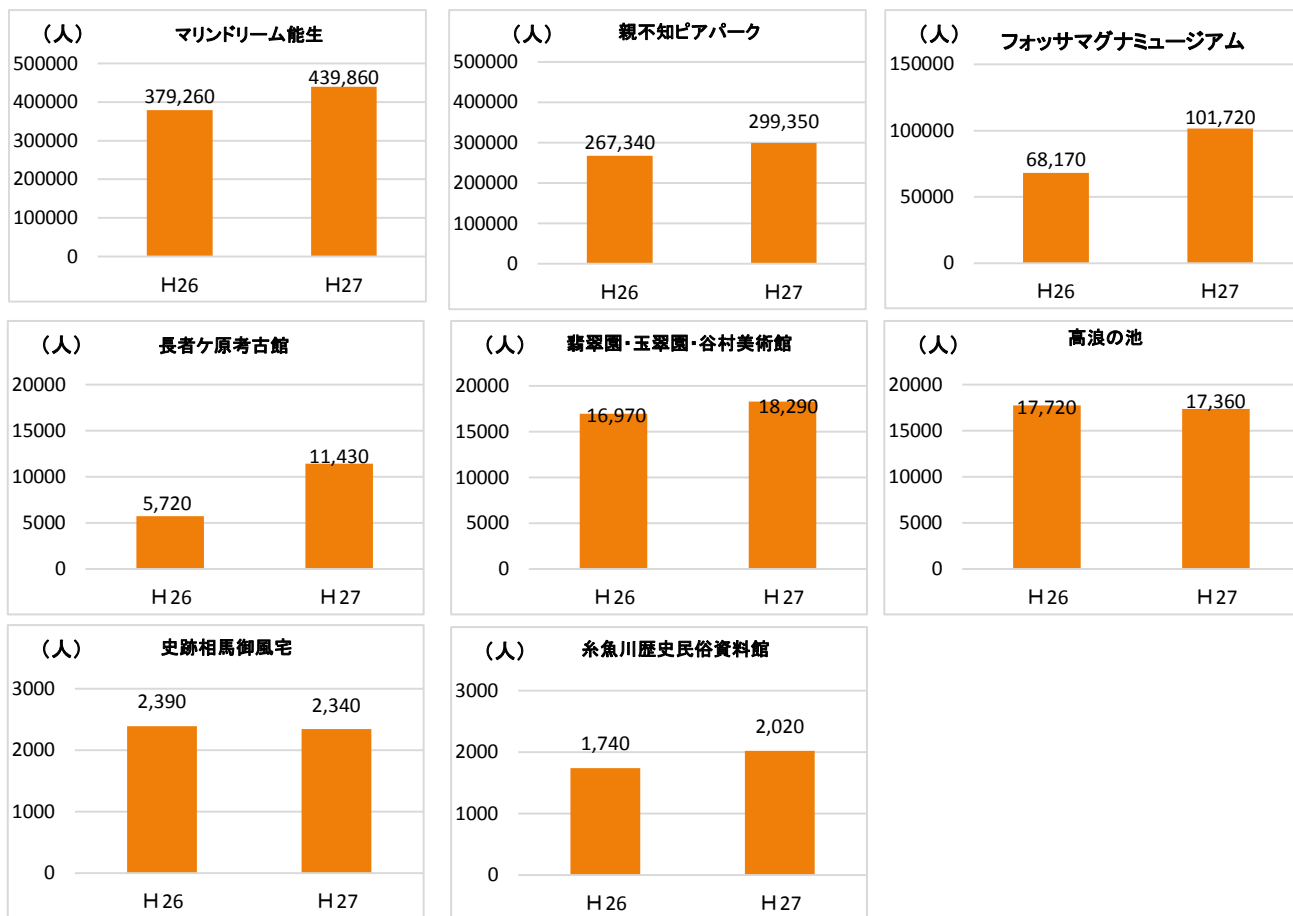
図：平成27年度 駅駐車場利用の新幹線利用割引台数
(出典：市資料)



図：平成27年度 駅駐車場利用の新幹線利用割引利用割合
(出典：市資料)

②観光入込客数の推移

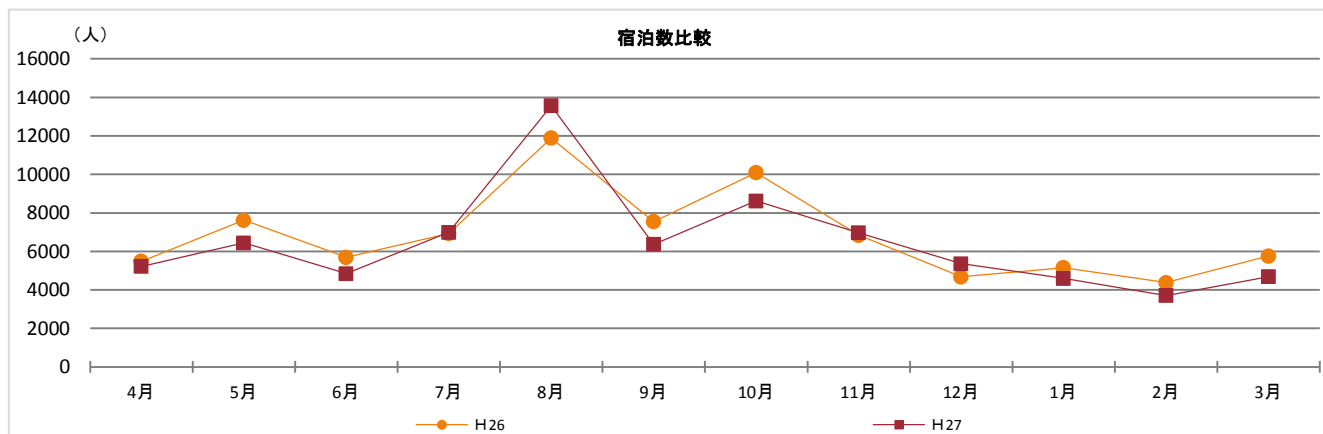
・各施設への観光客は、平成26年度より平成27年度の方が増加している。



図：平成27年度観光入込客数の推移
(出典：市資料)

③宿泊客数客数の推移

・宿泊客数は平成26年度より平成27年度の方が減少している。
 ・平成27年度の月別で見ると、8月、12月は平成26年度よりも増加しているものの、他の月では宿泊客数が減少している。

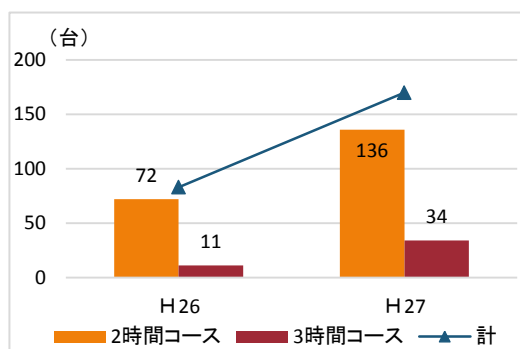


図：平成27年度宿泊客数の推移
(出典：市資料)

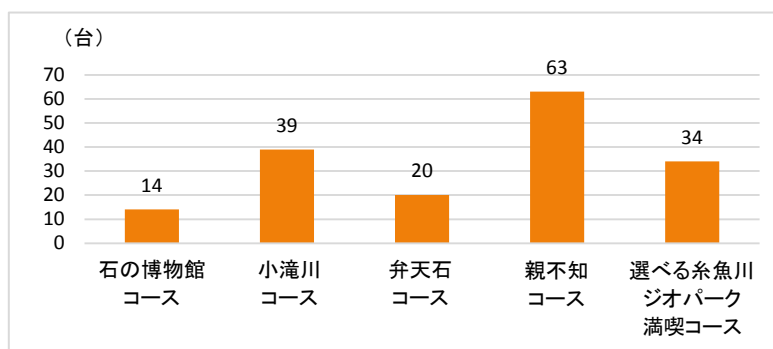
④ 観タクン利用実績

- ・平成 27 年度の観タクン利用者数は、平成 26 年度より 2 時間コース、3 時間コースともに増加した。
- ・目的地別では、親不知コース利用者が最も多く 63 台、次いで小滝川コース、選べる糸魚川ジオパーク満喫コースである。
- ・月別利用者数では 8 月の利用客が最も多い。夏休みを利用した観光客が多いと推察される。
- ・親不知への観光客は 1 月を除き、観光客が訪れる観光地である。

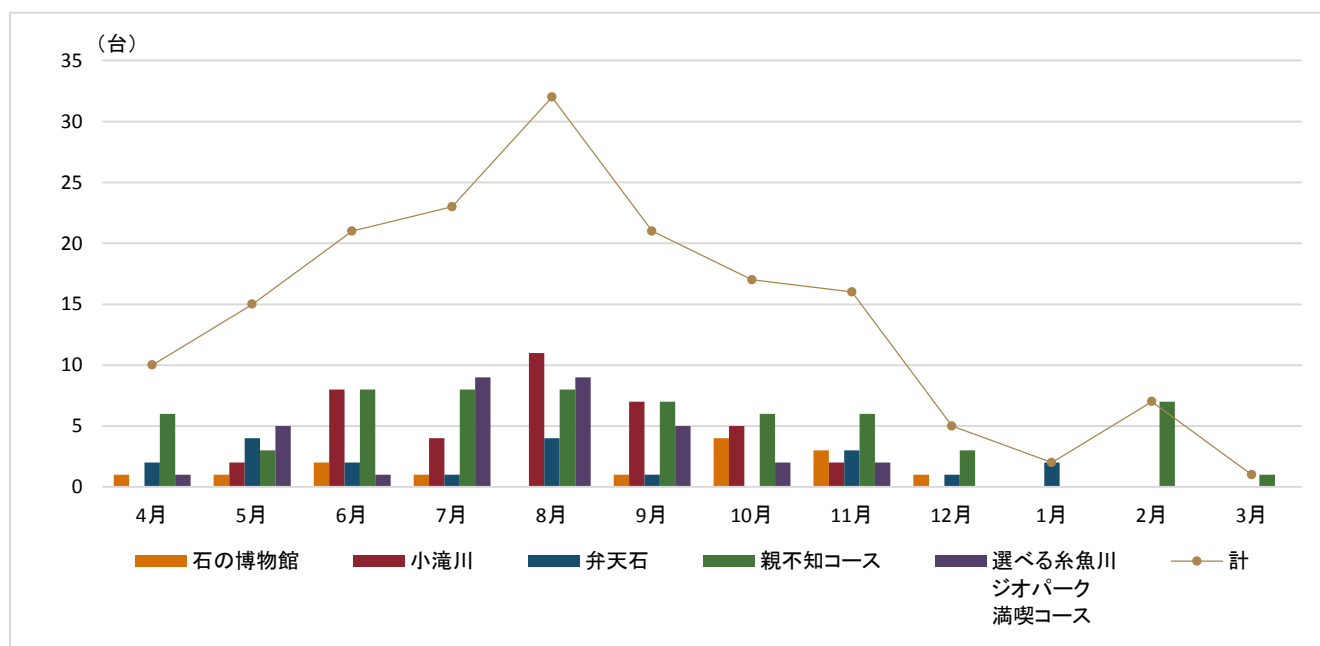
コース名	時間
石の博物館と庭園・美術館巡りコース	2 時間
小滝川ヒスイ峡と高浪の池を巡るコース	2 時間
弁天岩、白山神社、マリンドリーム能生を巡るコース	2 時間
親不知コミュニティロード、親不知記念広場と親不知ピアパークを巡るコース	2 時間
選べる糸魚川ジオパーク満喫コース	3 時間



図：観タクン利用実績
(出典：市資料)

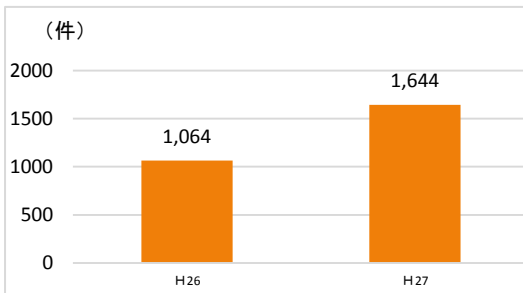


図：平成 27 年度観光地別観タクン利用実績
(出典：市資料)



図：平成 27 年度 観タクン利用実績
(出典：市資料)

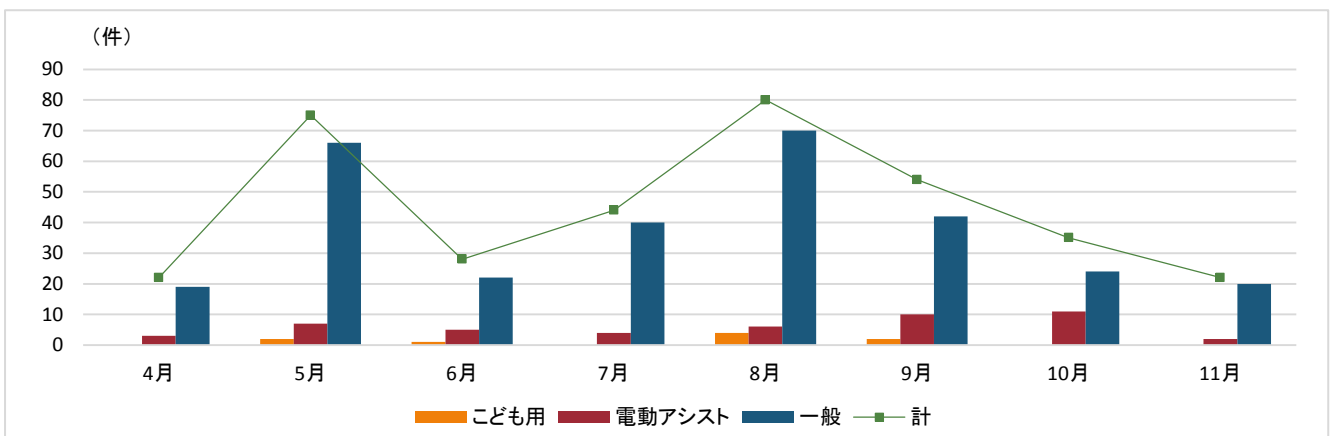
⑤ レンタカー利用件数



○平成 28 年度レンタカー乗捨て無料の取組
 期 間…4 月 1 日～9 月 30 日
 条 件…糸魚川営業所発着限定
 対象営業所…上越妙高、飯山、信濃大町、長野、
 松本、黒部宇奈月温泉、新高岡、松本

図：レンタカー利用件数の推移
 (出典：市資料)

⑥ レンタサイクル利用件数



図：レンタサイクル利用件数の推移
 (出典：市資料)

- ・利用時間…9時～17時
- ・利用期間…平成27年4月1日～11月30日
- ・料金（運営協力金）
 - 一般車（3段変速付き） 3時間 500円 1日乗り放題 1,000円
 - 電動アシスト自転車 1時間 500円 1日乗り放題 2,000円（キャンペーン中）
- ・受付窓口
 伊藤商会、糸魚川ジオステーションジオパル内観光案内所

⑦アンケート結果

●高齢者生活調査（平成25年実施）

調査地域	市内全域
調査対象	75歳以上のみの高齢者で構成される世帯の内抽出した1004世帯
抽出方法	地域を考慮して抽出
調査方法	市職員の対象世帯訪問による聞き取り調査 (SA) 一つに回答、(MA) あてはまるすべてに回答

Q1 外出について

- ・外出については「外出している」が93.6%、「外出していない」が6.4%であった。
- ・「外出している」と回答したうち、外出手段で最も多いのは「路線バス」25.8%、次いで「自分が運転する車」23.1%である。
- ・「外出していない」理由としては、「身体が不自由なため」が51.3%、「外出する用事がない」22.4%である。「交通手段がないため」が15.8%となっている。
- ・路線バスを利用しない理由として最も多いものは「路線バス以外に便利な交通手段がある」60.9%である。次いで「バスの段差がきつくて乗り降りできない」が10.1%である。「利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか」は「利用しない」が約8割を占めた。

車やバスで外出していますか。(SA)

回答	回答数	割合
している	940	93.6
していない	64	6.4
合計	1004	100.0

している 外出手段(MA)	回答数	割合
自分が運転する車	323	23.1
同居の家族が運転する車	103	7.4
別居の家族が運転する車	179	12.8
バイク	45	3.2
路線バス	361	25.8
電車	40	2.9
タクシー	179	12.8
近所の人の車	36	2.6
その他	131	9.4
合計	1397	100.0

していない なぜ外出しないのか(SA)	回答数	割合
身体が不自由なため	39	51.3
家族・医師に止められているため	2	2.6
交通手段がないため	12	15.8
外出する用事がない	17	22.4
その他	6	7.9
合計	76	100.0

路線バスを利用していない方 路線バスを利用していない理由(MA)	回答数	割合
路線バス以外に便利な交通手段がある	277	60.9
居住地域には路線バスが運行していない	9	2.0
最寄りのバス停まで遠い	39	8.6
利用しやすい時間帯の路線バスがない	29	6.4
バスの段差がきつくて乗り降りできない	46	10.1
バスの利用方法がわからない	8	1.8
その他	47	10.3
合計	455	100.0

利用しやすい時間帯に路線バスが運行し ていれば利用しますか(SA)	回答数	割合
利用する	65	21.3
利用しない	240	78.7
合計	305	100.0

1. 糸魚川市の現状分析

Q5 通院について

- ・通院については「通院している」が93.6%、「外出していない」が6.4%である。
- ・通院先は糸魚川総合病院が約4割、市外の病院へ通院している方が9.2%である。
- ・通院回数の回答が最も多いのは「月1回」、次いで「月2～3回」である。「月1～3回通院している」人は全体の71.0%となる。

現在病気で通院していますか

(軽いけが、歯医者を除く) (SA)	回答数	割合
はい	940	93.6
いいえ	64	6.4
合計	1004	100.0

はいと回答した方

通院先はどちらですか (MA)	回答数	割合
糸魚川総合病院	468	38.6
糸魚川総合病院以外の市内医療機関	634	52.3
市外の医療機関	111	9.2
合計	1213	100.0

通院の回数がどれぐらいですか

すべての医療機関の受診回数 (SA)	回答数	割合
月4回以上	66	7.0
月2～3回	257	27.3
月1回	411	43.7
2ヶ月に1回程度	125	13.3
3か月に1回程度	47	5.0
その他	34	3.6
合計	940	100.0

●北陸新幹線開業・市制10周年及び広報事業に関する糸魚川市民アンケート調査（平成25年実施）

調査地域	市内全域
調査対象	18歳以上の市民3000人
抽出方法	無作為に抽出
調査方法	郵送による配送・回収
回収率	42.9%

問5 糸魚川駅の新幹線利用者数増加のために必要なこと

- ・観光振興や魅力的な施設の設置が回答の大半を占めている。「駐車場やバス、タクシーなど交通利便性の向上」を回答した方は16.9%である。
- ・その他の回答には2次交通に関する意見が11件、駅周辺の駐車場整備に関する意見が8件挙げられている。その他の回答全体の25%を占める。

北陸新幹線糸魚川駅での乗客数を増やすためには、何が必要だと思いますか (MA)

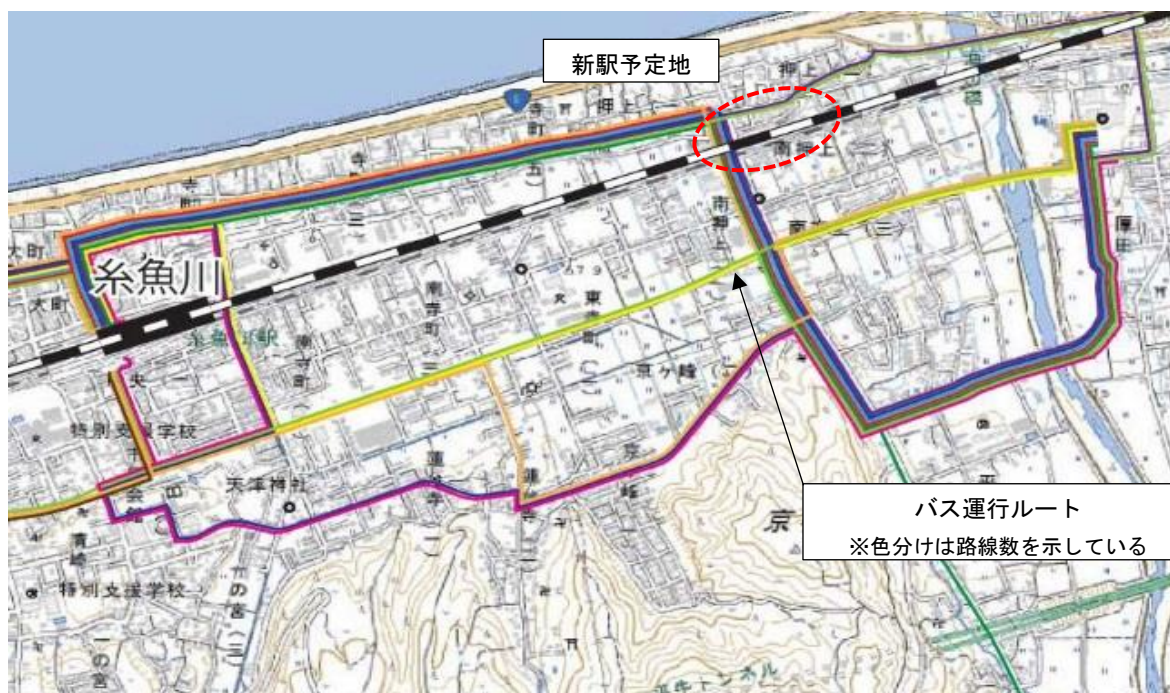
	回答数	割合
糸魚川駅を中心とした魅力的な施設	560	23.0
駐車場やバス、タクシーなど交通利便性の向上	411	16.9
地場産業など経済・産業振興	361	14.8
ジオパーク、豊かな自然や新鮮な食べ物などを活かした観光振興	858	35.3
文化、人などを生かした交流拡大	167	6.9
その他	76	3.1
計	2433	100.0

4. 新駅設置候補地周辺の現況整理

- ・えちごトキめき鉄道において、新駅2駅（今村新田地区と押上地区）の設置を計画している。平成32年度開業を目指している。
- ・新駅予定地周辺は現在バス路線が運行されている。特に、（仮称）押上駅周辺において6つの路線が運行されている。



図：（仮称）今村新田駅周辺バス路線
（出典：市資料、糸魚川バス路線図）



図：（仮称）押上駅周辺バス路線
（出典：市資料、糸魚川バス路線図）

5. 現況の整理と課題

(1) 現況の整理

①市の概況

- ・平成 27 年の国勢調査速報値によると糸魚川市内の人口は 44,161 人であり、平成 22 年から 3,541 人減少している。人口ビジョンの推計からも長期的な人口減少が見込まれている。
- ・年齢別にみると、0～14 歳の年少人口及び 15～64 歳の生産年齢人口は継続して減少傾向にある。65 歳以上の老年人口は平成 32 年を増加のピークとして、以降平成 52 年までに約 16,300 人～約 13,100 人に推移すると推計されている。
- ・海岸沿いの平野部と谷筋沿いに市街地、集落が形成され、「山」の字のような居住分布となっている。これにより、主要道路は「山」の字の形に整備されている。

②市内公共交通網

[鉄道]

- ・鉄道利用者は長期的に減少傾向にある。
- ・駅舎とプラットホームの間に階段が多いものが多く、バリアフリーに関する整備が不十分である。

[路線バス]

- ・路線バスは、各谷あいにある温泉やスキー場等の観光施設と市街地や糸魚川駅等主要駅を繋いでいる。そのため、各路線は片道運行距離が 20km を超えるような長大路線となっている。
- ・えちごトキめき鉄道、JR 大糸線と競合する路線が多い。

[コミュニティバス、乗合タクシー]

- ・コミュニティバス、乗合タクシーは主にそれぞれの地区内を運行している。
- ・利用者数は地域によって大きく異なる。

[その他公共交通]

- ・小学校、中学校の通学が不便な地区の一部では、スクールバスが運行している。また青海地域で運行している医療受診者送迎車、能生地域で運行しているふれあい送迎は、年間利用者数が約 1,200 人程度である。
- ・その他公共交通と路線バスが併走している区間が多いため、今後詳細な分析が必要である。
- ・高速バスは、北陸新幹線やえちごトキめき鉄道の開業に伴う新潟市方面への特急廃止や県内高速バス他路線の減便等により、糸魚川～新潟線の利用者が増加している。

③新幹線の状況

- ・調査期間中の新幹線利用者は、平日よりも休日の方が多い。
- ・同時期の利用者数を比較すると、平成 27 年 7 月の利用者よりも平成 28 年 7 月の新幹線利用者数が減少している。

④運行にかかる補助金

- ・公共交通にかかる補助金は年々増加傾向にある。

⑤公共交通利用促進事業

- ・小中学生向けに「子どもフリーパス」を販売している。遠距離通学児童・生徒に対しては、通学支援として路線バス等の定期券を支給している。
- ・一定の条件を満たす高齢者、障がい者に向けて路線バス、タクシー運賃の助成、タクシーの交付を行う「高齢者・障害者おでかけパス事業」「高齢者おでかけ支援タクシー券交付事業」「障害者交通費助成事業」を実施している。
- ・その他、バス教室の開催や期日限定のワンコインバスの運行を行っている。
- ・路線バス啓発・利用促進資料配布、公共交通を知ってもらうために、市職員とバス会社社員が地域に出張する「よるまいか〜」等を実施している。

⑥既存アンケート

- ・75歳以上の高齢者の方へ「外出について」ヒアリングを行った結果では、「車やバスで外出している」方が回答者の9割を占める。最も多い外出手段は「路線バス」25.8%、次いで「自分が運転する車」23.1%である。
- ・路線バスを利用しない理由として最も多いものは「路線バス以外に便利な交通手段がある」60.9%である。次いで「バスの段差がきつくて乗り降りできない」が10.1%である。
- ・「利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか」は「利用しない」が約8割を占めた。

⑦観光入込客数

- ・観光客数は平成27年3月の北陸新幹線開業に伴い増加している。一方、宿泊客数は平成26年よりも減少している。

(2) 課題の整理

① 公共交通網の課題

①-1 公共交通の競合解消と効率的な運行の検討

- ・各路線バスは、各拠点から国道8号等を経由して市街地へ向かう系統が多いため、国道8号等で路線が競合している。路線バスとコミュニティバス、乗合タクシー、スクールバス等が競合する区間も存在している。
- ・路線バスは各地域拠点から国道を経由して市街地へ向かう路線が多いため、鉄道とバス路線が競合している。
- ・路線バスの効率的な運行のために、利用目的や利用区間、利用頻度等に関する詳細な分析を行う必要がある。路線バスで対応すべきものを精査し、コミュニティバス等への転換も含めた再編を検討する。
- ・コミュニティバスや乗合タクシーは、利用者1人当たりのコストが非常に高い。運行を継続できるよう効率性を高め、他の交通政策とも総合的に調整する必要がある。
- ・立地適正化計画と連携し、市街地形成を支える公共交通の効率的な運行を検討する必要がある。

①-2 スクールバス、送迎車の整合性の検討

- ・青海地域で運行している医療受診者送迎車、能生地域で運行しているふれあい送迎は、利用者が一定程度いるものの、無料での運行であることから、他生活交通とのバランスに欠けている。
- ・平成30年4月に予定されている浦本小学校と市振小学校の閉校に伴い、統合先への通学手段の検討が必要である。

①-3 観光二次交通の検討

- ・北陸新幹線開業に伴って観光客が増加傾向にある。観光客にとって市内観光において利用しやすい二次交通のあり方を検討する。
- ・糸魚川ユネスコ世界ジオパークの24ジオサイトへの移動ニーズに柔軟に対応できる二次交通の検討が必要です。

①-4 新駅の整備

- ・市としてのまちづくりや周辺地区の地域づくりと一体となった取組が必要です。
- ・周辺で運行されている路線バスと適切に役割分担を行い、効果的で効率的な再編を行う必要がある。

② 公共交通利用環境の課題

②-1 駅施設の利用環境の改善

- ・高齢者が増加していくなか、鉄道駅はバリアフリーに関する整備が不十分であり、高齢者や身体が不自由な方が利用しづらい状況にある。

②-2 バス車両の利用環境の改善

- ・バス車両においても、バリアフリー対応がされておらず、高齢者等において利用しづらい状況である。

②-3 利便性向上

- ・北陸新幹線開業に伴い観光客数が増加している。観光客にとって利用しやすい2次交通の案内

や乗り換え情報の周知等を行う必要がある。

③ 公共交通維持への課題（仮説）

③-1 運行事業者担い手の不足

- ・路線バスは、運転士不足や運転士の高齢化により、運行にかかる必要な人員確保が困難であり、安定した運行の維持が厳しい状況が続いている。運行事業を担う人材の育成や効率的な運行の見直しを行う必要がある。

③-2 公共交通利用状況の見える化

- ・公共交通に関する市民理解のためには、利用状況の見える化が有効となると考えるが、利用状況の集計においては、路線バスを運行している各運行事業者の集計様式が異なり、集計作業が複雑な点がネックとなっている。集計表の統一による集計の簡便化を行い、公共交通利用者数の把握を容易にする必要がある。

③-3 公共交通の維持、利用促進に関する市民理解

- ・公共交通の運営に関して、市単独補助もしくは自主財源に頼らざるをえない状況である。公共交通利用を増加し収益を上げるため、公共交通の運行、維持に関して市民への理解を深めるための取り組みを行う必要がある。
- ・既存の利用促進事業を踏まえ、公共交通利用に関する利用方法の周知、乗車体験の機会を拡充し、利用促進を重点的に進める。